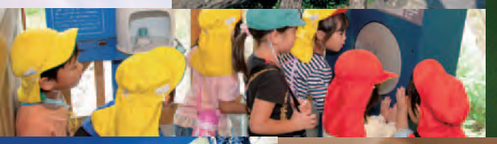
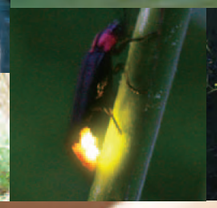
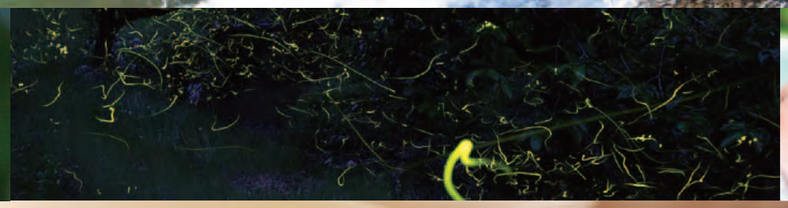
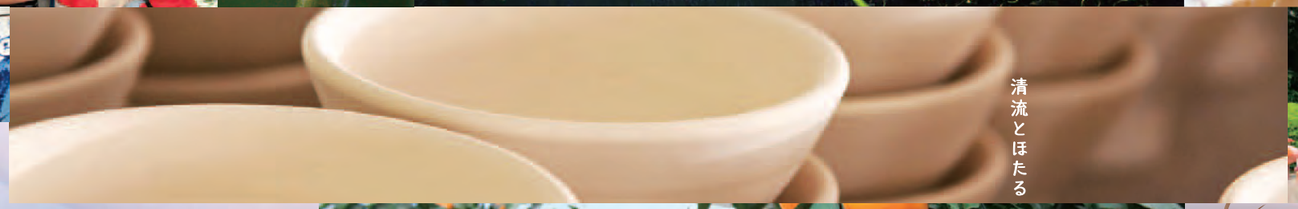
陶街道の景色 砥部町勢要覧2014

陶街道の景色 keshiki



清流とほたる 砥部焼とみかんの町

愛媛県 砥部町

砥部町勢要覧
編集・発行：砥部町
〒791-2195 愛媛県伊予郡砥部町宮内1392番地
TEL089-962-2323/FAX089-962-4277
http://www.town.tobe.ehime.jp/
印刷：セキ株式会社
平成27年3月発行

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキを使用しています。

砥部の風光

清らかで生き生きとした陶源郷

県都・松山に隣接する砥部町は、川沿いの段斜面に広がる砥部地区と、山あいに広がる奥座敷の広田地区にわかれます。焼き物の里としてのネームバリューに加え、近年、町内のスポットを結ぶ陶街道五十三次や坂村真民記念館など、耳目を集めるまちづくりを繰り広げてきました。

ここは、古代より、「正倉院文書」や「延喜式」に記載のある「伊予砥（いよと）」を産出し、良質な砥石の産地として有名でした。伊予砥は、藩政時代、全国に販売されて、広くその名を馳せたといわれます。砥部焼磁器創業の原料になったのも、この砥石くず。砥石山の一帯は「砥山」「外山」と呼ばれ、これが「砥部」の地名の発祥だとされています。

砥部町には無垢な自然がたっぷり残り、素朴で懐かしい里山風景が広がる一方、焼き物をベースにしたモダンでアートフルなデザインが、暮らしの中に溶け込んでいます。町の隅々まで、呉須のブルーの清涼感が満ちあふれ、だれでもわけ隔てなく受け入れる、懐の深さも持っています。

そんな田舎と現代が混在する姿はすこぶる魅力的。清らかで生き生きとした〝陶源郷〟だといっても過言ではありません。

陶街道の景色 KEISHIKI

第一章 陶郷の景色
のどかで明るい焼き物の里…02
砥部焼の真骨頂…04
草創期からのドラマをたどる…06
まちかどアートギャラリー…08
学びと体験の場…10
町が大にぎわいする日…11

第二章 笑顔の景色
人気モノの動物集合…12
スポーツと文化の拠点…14
交流とにぎわいの拠点…16
夢を描く若者たち…18
「コラム」砥部のひと『太平記』で知られる大森彦七…20
砥部町名誉町民…21

第三章 山河の景色
清流が育むほたるの里…22
四季のいろどり…24
山の産業と恵み…26
里の産業と恵み…28

第四章 ことばの景色
心に響く珠玉の言葉…30
漫画家 黒鉄ヒロシさんがみた真民さん…32
民話の里ひろた物語…33

第五章 つながりの景色
地域を結ぶ陶街道五十三次…34
砥部町早わかりマップ…36
とべの歳時記…38
砥部町総合計画…39
基本計画①～⑤…42
みんなが主役のまちづくり…47
「コラム」地域に密着したオリジナルな教育活動…48
資料編…49

標高約 260 mの砥石山には砥石の採掘跡が残る。明治初めまで露天掘りだったが、その後は砥石が乏しくなり、坑道を利用して採掘された。昭和 57 年に町の記念物に指定

01

02

03

04

05

01 町の有形文化財に指定されている梅山大登窯
02 柑橘の栽培が盛んな土地でもある
03 一つひとつ丁寧に行う職人たちの手仕事
04 全長 500 mの陶板の道は 580 枚の陶板が敷き込まれている
05 国道 33 号から障子山をのぞむ

Atmosphere of Tobe
Tobe Town, bordering Matsuyama, the prefectural capital of Ehime, is a pure and energetic town known for ceramics. While nature is abundant and a nostalgic feel remains in this Satoyama town, modern and artful designs reflected in Tobe pottery blend into daily life.

第一章

陶郷の景色

のどかで明るい焼き物の里

古くから焼き物が盛んだった砥部。小鳥のさえずりに耳を傾けながらそぞろ歩けば、みかん畑の中に窯元を見つけます。普段づかいの器として愛用される砥部焼は、こんなのどかで明るい里山から生まれます。

さわやかな砥部焼カラーと焼き物産地の原風景

ぽってりとなめらかな白磁に、味のある藍色の染付（そめつけ）。一つひとつ丹精込めて作られるからでしょう、どこか温かで素朴な雰囲気をまとっています。

砥部焼は、原料から出来上がりまでのほとんどを、町内でまかなっています。原料の陶石が掘り出されるのは広田地区の上尾峠（うえびとうげ）。上尾陶石を細かく砕いて作られた坏土は、ほとんどの窯元で使われています。

昔は薪を使って焼きました。斜面を利用して築かれた登り窯は、炎が上にのぼっていく原理を利用して効率的に焼き上げるもの。燃料は戦後になって灯油や重油にかわり、現在は、ガス窯や電気窯が主流になっています。

町内には、レンガ造りの登り窯や、薪・灯油・重油時代をしのぶ煙突が、あちらこちらに残っています。

素朴な里山には、白と青のすがすがしい砥部焼カラーの中に、ノスタルジーあふれる焼き物産地の原風景が、顔をのぞかせているのです。

大南から北（松山方向）を向いて町内を一望する

01

02

03

04

01 陶祖ケ丘の古陶碑は時代ごとに砥部焼の変遷がわかる
02 窯焼きを待つ器たち
03 往時をしのぶ煉瓦造りの煙突。ウメノ青興陶園
04 砥部焼は高温で焼かれる

Tobe Pottery created in pastoral Satoyama

Most of the processes that comprise Tobe pottery from gathering raw materials to finishing are performed within Tobe Town. Throughout Tobe Town, in the refreshing Tobe pottery colors of blue and white, we can see in the nostalgic landscape climbing kilns made of bricks and chimneys used in old times.

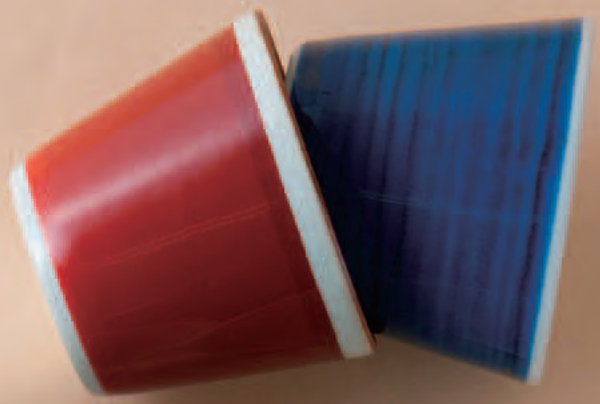
第一章

陶郷の景色

砥部焼の真骨頂

温かみのある器に清楚な藍の文様
暮らしに寄りそう砥部焼の器

True Value of Tobe Pottery
Thick and full bodied Tobe pottery is simple and warm-feeling. Tobe pottery artisans carefully create shapes one by one and the patterns of wild grass and other patterns are traditionally painted in deep indigo blue.



太陽文
優しい風合いで人気

なずな文
古砥部の文様をアレンジ

唐草文
大胆なデザインで
砥部焼を代表する文様

赤絵菊文
自然のなにげない美しさが
際立つ

十草文（とくさもん）
シンプルで味わい深い

厚みがあり丈夫で使いやすい器

土から作られる陶器とは異なり、石を原料に高熱で焼き上げられる磁器には、薄手でシャープな印象がありますが、同じ磁器でありながら、砥部焼にはゆったりとした素朴な味わいがあります。

他産地にはみられない厚手の素地は、少々のことではびくともしない頼もしさを感じさせ、また、その厚みにふさわしいぽってりとした優しい形は、思わず手にとりたくなる魅力を秘めています。

自然の生命を活写した さまざまな文様

砥部焼には自然をモチーフにしたデザインがしばしば描かれます。新たな季節の訪れを知らせるように、野原や道ばたでひっそりと咲く花たち。その可憐な姿を、職人たちが一筆一筆、丹念に器に描き出します。

自然の姿をそのまま写し取ったもの、大胆にデフォルメしたものなど文様はさまざまですが、いずれも躍動する自然の息吹にあふれ、毎日の食卓に花を添えます。

また、最近は若手や女性作家も増えており、新鮮な感性から生まれる斬新な文様が、砥部焼に新たな魅力をもたらしています。

伝統色の清楚な藍色は 窯ごとに調整

すっきりと清々しい白磁の肌に溶け込んだ渋味がかった藍の色。昔から砥部では「呉須（ごす）」と呼ばれる顔料が絵付けに使われてきました。

呉須は酸化コバルト、マンガン、鉄などを含む天然鉱物の顔料で、焼成法によって色合いが変わります。そのため、窯元は自家の器に最も適した色を作りだすための調整を行っています。

01

02

05

03

06

04

01 厚くて丸い縁をした「玉縁鉢（たまぶちばち）」。実用性に美を秘めている
02 高台が大きい独特の飯碗「くらわんか」
03 ～ 06 無形文化財技術保持者の作品

第一章

陶郷の景色

01

草創期からのドラマをたどる

02

陶里の条件を備えた土地

砥部焼は磁器から始まったと思われがちですが、磁器以前に陶器の時代がありました。

03

焼き物に適した土が産出されただけでなく、窯を焚く燃料となるアカマツが周囲に豊富だったこと、登り窯を築くのに最適な傾斜地が町の各所にあったことなど、焼き物に適した条件を備えたこの地で器づくりが始まったのはごく自然なことでした。

陶器としての砥部焼の名が最初に文献に現れるのは元文5年（1740）ですが、北川毛（きたかわげ）の古窯跡から出土した壷や皿などに鉄絵具で絵付けされた陶器が見られることから、砥部焼は陶器から始まったことが分かっています。

世界に飛躍した明治・大正期

磁器の生産は大洲藩の時代に始まりました。財政状況の厳しかった大洲藩は、当時盛んに外山で産出されていた砥石の屑で磁器を作ることを、杉野丈助に命じました。九州に陶工を送るなどして工法を探るものの、技術は門外不出とされたために失敗を重ねましたが、安永6年（1777）、ついに白磁の焼成に成功。その後、川登で陶石が発見されて大量生産が可能になり、原料や窯の改良などが進められました。

明治期に砥部焼は飛躍的に発展します。五松斎窯の錦手や、シカゴ世界博で一等を受賞した愛山窯の淡黄磁などで世界にその名が広まり、生産量の約7割が東南アジア、インド、オーストラリア、アメリカなどに輸出されるという繁栄ぶりでした。製陶業に従事する住民も多く、砥部の街はおおいににぎわいました。

民芸作家のアドバイスで復興

昭和初期の世界的な大不況とそれに続く第二次世界大戦の敗北で、他産地同様、砥部も壊滅的な打撃を受けました。そのような状況の中で、戦地から戻った陶工たちは花器や置物などの生産に活路を求めました。

民芸運動家の柳宗悦、バーナード・リーチの昭和28年の来砥に続いて、濱田庄司、富本憲吉らが砥部を訪れ、大量生産にはない手仕事の良さを砥部焼に見いだしました。

〝大量生産ではなく、ロクロと手描きによる磁器づくりを〟という彼らのアドバイスに砥部焼の未来を託した陶工たちは、グループを作って研究を重ね、技術を磨きました。民芸家たちも力のある指導者を砥部に送りこんで、復興を助けたのです。

伝統的な文様を大胆なタッチでアレンジした磁器は、折からの民芸ブームにも助けられ、砥部焼として定着。昭和51年には国の伝統的工芸品に指定されました。東京での展示販売をきっかけに、素朴で温もりのある器は都会の人々に好意的に受け入れられ、全国的な知名度を得たのです。

04

10

09

07

05

08

06

01 登り窯の絵（初代・中元竹山の筆による）
02 陶祖ケ丘の杉野丈助の碑。毎年 4 月に陶祖祭が行われる
03 北川毛窯から出土した江戸中期の鉄絵陶器
04 昭和 28 年に砥部を訪れた民芸運動家の柳宗悦
05 江戸時代の手描き染付。呉須のブルーが味わい深い
06,09 明治時代、五松斎窯では九州有田から陶工を招いて錦手が作られた
07,10 型絵で文様を施す印判手（明治時代）
08 向井和平（愛山窯）の淡黄磁は品のある象牙色が特徴（明治時代）

Dramas from the Founding Period

Tobe pottery started as earthenware in the 18th century, under the control of the Ozu Domain. During the Meiji era, Tobe pottery was actively exported, but suffered a significant decline due to World War II. Nevertheless, it was revitalized at the suggestion of Yanagi Muneyoshi and Bernard Leach, famous for their folk art movement.

まちかどアートギャラリー

砥部町は、古くからある焼き物の里ですが、まちかどにはさまざまなモニュメントがあり、ギャラリーさながらの観を呈しています。現代アートの香りに満ちたユニークなオブジェは未来への予感も感じさせて、飽きることがありません。誌上でアートの旅をお楽しみください。

学びと体験の場

01

03

02

04

01 砥部焼伝統産業会館 1 階常設コーナーはスタイリッシュなディスプレイが目をひく。2 階では約 80 の窯元の作品を展示販売している
02 砥部焼の歴史などが学習できる砥部焼伝統産業会館
03 陶工気分を満喫できる砥部町陶芸創作館
04 陶芸創作館では好きな器に絵付けができる。ロクロ、手びねりコースは予約が必要
05 ロクロで作った磁器では国内最大級といわれる砥部焼の地球儀。外国人来館者には、地球儀上に出身国を示すシールを貼ってもらう

砥部焼伝統産業会館
砥部町陶芸創作館

砥部焼の歴史を学び創作の楽しみを味わう

砥部焼伝統産業会館は平成元年にオープンした砥部焼の中核拠点です。国の伝統的工芸品である砥部焼の紹介と共に、窯元に発表の場を提供しています。

陶器の時代から現在までの歴史を概観できるコーナー、砥部焼を使った新しいライフスタイルを提案するスペースのほか、2階には作品の展示販売と催事スペースがあります。観光案内所も兼ねており、レンタサイクルも用意されています。

砥部町陶芸創作館は、絵付けやロクロの体験ができる施設です。

皿、茶碗、マグカップなどおよそ100種の素焼が揃い、好みの器に絵を付けることができます。赤ちゃんの記念手形や、寄せ書きなどに活用する人も。本格的な創作を希望する人には、ロクロと手びねりのコースもあり、世界に一つのオリジナル作品を作ることができます。

05

The Main Facilities and Events Celebrating Tobe Pottery

The Tobe Pottery Traditional Industry Hall serves as the base for promotion and tourism of Tobe pottery and the Tobe Town Pottery Art Creation Hall is where you can try painting and taking a turn at the potter's wheel. The bi-annual Tobe Pottery Festival held in spring and autumn becomes crowded with many people.

町が大にぎわいする日

01

04

03

02

06

05

07

01,02　砥部焼まつりは毎年４月第３土・日に開催。即売のほか、新作展や特産品販売なども行われ、常連客も多い
03,04,06　窯元にとって砥部焼まつりは、消費者の動向を知る好機にも
05　砥部焼伝統産業会館前では砥部焼オークションを開催
07　女性作家たちのグループ「とべりて」のブース。女性らしいしなやかな発想が光る

砥部焼まつり

ファン待望の一大イベント

昭和59年にスタートした砥部焼まつりは、4月第3土・日曜に行われ、毎年10万人近い人でにぎわいます。陶街道ゆとり公園を主会場に、砥部焼伝統産業会館、砥部町商工会館などで、約100軒の窯元が10万点におよぶ砥部焼を展示販売します。新作展、オークションなどイベントも多彩。なお、11月最初の土・日曜に伝統産業会館周辺で開催される「秋の砥部焼まつり」では、窯元による対面販売が好評です。

第二章

笑顔の景色

人気モノの動物集合

子どもから高齢者まで、それぞれのライフステージにふさわしい楽しみの場が、砥部町には数多くあります。なかでも、子どもにも大人にも人気の愛媛県立とべ動物園は、自然に近い展示や、繁殖に力を入れており、中四国でトップクラスの入園者数を誇ります。

緑の中でのびのび暮らす動物たち

愛媛県立とべ動物園

西日本屈指の規模

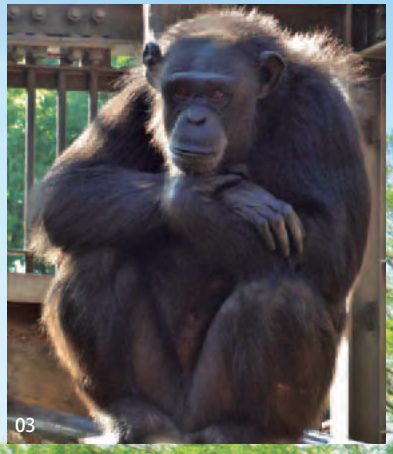
約11haという西日本屈指の規模をもつ県立とべ動物園。前身は昭和28年に開園した道後動物園で、昭和63年、砥部の地に移されました。

開園から四半世紀が過ぎた現在、年間入園者数が中四国でトップクラスという人気の動物園に成長。169種781点（平成26年12月末現在）の動物たちがバランス良く集められ、ゾーンを巡ることで動物の国の世界一周旅行ができる仕組みです。各ゾーンには観察ポイントが記された案内板や解説パネルが設けられ、より楽しめるよう配慮されています。

同園では繁殖にも力を入れています。日本初の繁殖成功例も多く、ことに平成11年生まれのホッキョクグマの「ピース」、同18年生まれのアフリカゾウ「媛」は国内で初めての人工哺育成功例として注目されました。現在、国内で唯一アフリカゾウの親子が見られる動物園として人気を集めています。

平成26年にはレッサーパンダ、カリフォルニアアシカなどが誕生したほか、繁殖を目的とする「チンパンジーの森」も新設され、今後もおめでたニュースが続きそうです。

同園では動物たちの行動を間近に見ることができます。強化ガラスごしに迫力ある姿が見られるライオン舎や、地上11mの高さで綱渡りするオランウータンを観察できる「スカイウオーク」、愛媛の里山をイメージした「バードパーク」、樹上での生活を見られる「チンパンジーの森」など、動物たちののびのびとした姿に触れることができます。



01 日本初の人工哺育が話題となったピースは平成11年生まれ
02 鳥を間近で観察できる「バードパーク」。県内に棲息や飛来するカモ、サギ、キジ類が見られる
03 平成26年10月新設の「チンパンジーの森」。繁殖を目的に造られた

column

夜の動物園

異色の催しとして人気があるのが夜の動物園です。8月～10月の土曜の夜限定のイベントには、普段は見られない動物たちの姿を見ようと、平均で毎回3,000～4,000人の来園者が訪れます。入園口にはイルミネーションが輝き、幻想的な雰囲気に包まれるこの取り組みは、平成16年に始まりました。

Many Popular Animals

Tobe Zoological Park of Ehime Prefecture is one of the largest zoos in western Japan and exhibits animals in a natural environment. It also focuses and specializes in breeding. The Polar Bear “Peace” and the African Elephant “Hime”, brought attention as the first success cases in hand-rearing in Japan.

「媛（ひめ）」に続いて「砥夢（とむ）」「砥愛（とあ）」が誕生、アフリカゾウの親子が見られる国内唯一の動物園として人気

01

第二章 笑顔の景色

スポーツと文化の拠点

陶街道ゆとり公園

スポーツとレジャーの総合公園

およそ14haの広さがある「陶街道ゆとり公園」は、平成23年4月に「砥部町総合公園」から名称を変更しました。

バレーボールコートが3面とれる体育館、全天候型人工芝のテニスコート（4面）のほか、ソフトボールやサッカーができる多目的広場、大型ローラー滑り台や複合遊具のあるあすなろ山、70台のおもしろ自転車で遊べるわんぱく広場など、多様な施設が揃っています。

小高い丘にある公園からの眺めは抜群。春の花見をはじめ、四季折々の情景を家族揃って楽しむことができる、町民の憩いの場として親しまれています。

column

えひめ国体 バドミントン競技会場に

平成29年に愛媛県で開催される「愛顔（えがお）つなぐえひめ国体（第72回国民体育大会）」のバドミントン競技が、同園体育館で開催されます。また、同園多目的広場では、「愛顔（えがお）つなぐえひめ大会（第14回全国障害者スポーツ大会）」のグランドソフトボール競技が開催されます。

砥部町では国体推進課に町実行委員会事務局を設置。国体に向けて、体育館アリーナの照明のＬＥＤ化や床、外壁、内装の改修も行われ、選手・監督をはじめ、全国各地から訪れる皆さまをお迎えする準備が着々と進められています。

03

02

04

01「えひめ国体」のバドミントン競技会場になる体育館アリーナ
02 多目的広場で開催されるスポーツまつり。ここは、「愛顔（えがお）つなぐえひめ大会」グランドソフトボール競技会場として使用することが決定している
03 体育館外観
04 おもしろ自転車があるわんぱく広場には子どもたちの歓声が響く

01

砥部町文化会館

芸術・文化の発信 生涯学習の活動拠点

平成13年に開館した砥部町文化会館は、804席の「ふれあいホール」を中心に、名優・井上正夫の資料展示室、図書館、郷土資料展示室、視聴覚室、大小会議室などが完備された複合施設として、各種イベントのほか、文化創造活動や伝統芸能の保存伝承活動などに利用されています。

車椅子席・親子席もある「ふれあいホール」は音響性能に優れ、演劇、演奏会、講演会など多用途に使われています。また、甘く艶やかな音色のピアノの名器スタインウェイのあるホールとしても知られています。

また、図書館には9万5、000冊（平成26年3月末現在）を超える蔵書があり、年間のべ5万人を超える利用者があります。一般図書のほか児童書、雑誌、ビデオやCDも用意されており、幼児向けの工夫をこらしたおはなし会など多彩なイベントも好評です。

平成19年に設立された「砥部町文化会館友の会」では、談話会「砥部12か月ーこの町の魅力ー」など自主企画を通して、同館を支えるとともに地域文化の振興に努めています。

03

02

01 音響効果に優れ、客席最後部まで舞台の肉声が届くホールは、演劇、講演会、演奏会などに広く活用される
02 砥部町文化会館外観
03 砥部の歴史を紹介する郷土資料展示室
04 井上正夫資料室では、出演作のポスター、台本、ユーモアあふれる書簡や書画などを展示

column

書画もたしなんだ名優

04

大南出身の井上正夫は、抜群の演技力で舞台、映画にと活躍。井上演劇道場で鈴木光枝、岡田嘉子らを育てました。顕彰のため結成された「井上正夫会」では、命日の2月7日を「如月忌」として毎年法要を続けており、砥部小有志による墓所の清掃も行われています。中通の出生記念碑のほか、砥部町文化会館前と松山市駅前に胸像（伊藤五百亀制作）があります。

井上正夫（本名・小坂勇一）1881～1950年

Sports and Cultural Facilities

The Tokaido Yutori Park is a multipurpose park for enjoying sports and leisure. This will be the site for The badminton event at the Ehime National Athletic Meet to be held in 2017. The Tobe Town Cultural Hall is the base for life-learning activities, where there is an event hall, a library and a material exhibition room.

01

第二章

笑顔の景色

交流とにぎわいの拠点

えひめこどもの城・とべ温泉湯砥里館

笑顔あふれる遊びの王国

県立の大型児童館「えひめこどもの城」は、砥部町と松山市にまたがり、約35haの広大な敷地を有します。あいあい児童館を中心とした「こどものまち」、じゃぶじゃぶ水路が楽しい「イベント広場」、陶芸や木工体験ができる「創造の丘」、てんとう虫のモノレールが待つ「冒険の丘」、自然散策を楽しむ「ふれあいの森」と、5つのゾーンが子どもたちを迎えます。創造の丘の陶芸コーナーでは、小さな子どもも砥部焼作りが体験でき、とても人気です。

お肌すべすべの「美人の湯」

平成5年開館の「とべ温泉・湯砥里館」は、良質のナトリウム泉のため肌がすべすべになる「美人の湯」で知られます。気泡・サウナ・水の3種類の風呂があります。軽食コーナーや休息室もある、温もりとくつろぎの施設です。

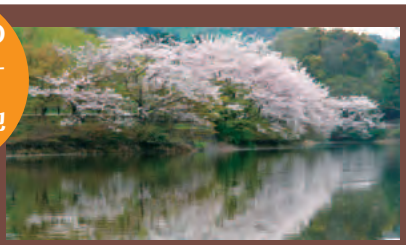
03

02

01 西洋のお城のような「あいあい児童館」は建物全体が遊び場
02 「とべ温泉・湯砥里館」
03 「とべ温泉・湯砥里館」の浴室には大きな陶壁画「砥部更紗文」が飾られている

column

季節の彩りを映す 通谷池



えひめこどもの城に隣接する通谷池は、江戸時代の寛政5年（1793）に農業用の灌漑用水として造られたため池です。町内でも一、二を争う面積があり、昔話にも登場するほど親しまれた池は、先年、農林水産省の“ため池百選”に認定されました。春は満開のサクラ、秋は紅葉と、四季の彩りを水面に映し、散策コースにも最適です。

01

02

道の駅ひろた・ひろた交流センター

都市と農村の交流と地域の魅力発信

道の駅ひろた「峡の館」は、木造の大きなやぐらが目印。「道の駅」は道路利用者のための休憩と情報発信、地域の連携機能を目的に設置されました。「峡の館」には農産物直売所のほか、研修や会合に便利なオープンスペースも備えています。特産のシイタケ、自然薯のほか、新鮮な農産物を求めて都市部からのお客さんも多く、広田地区の魅力発信の場にもなっています。

支所と公民館機能を統合した交流拠点

広田地区公民館と砥部町役場広田支所を統合した施設「ひろた交流センター」は平成22年3月にオープン。鉄骨2階建ての建物は、地域防災拠点としての機能も備えています。1階に調理実習室や児童ルーム、2階はホールと和室があり、地域住民の交流と文化活動の場として活用されています。

01, 02 道の駅ひろた 「峡の館」は平成12年に開館。季節ごとのイベントも多彩に行われている
03 ひろた交流センター外観
04 毎年3月に、ひろた交流センターで開かれる「広田地域芸能発表会」

04

03

column

大人も乗れる列車「ひろたん号」

道の駅ひろた「峡の館」の一帯は、かつて銅鉱石の採掘が盛んでした。鉱石を運搬するために使われたトロッコ列車にちなんで登場したのが「ちびっこ列車ひろたん号」（無料）。乗車を希望する際は峡の館まで。

Base of Exchanges and Bustle

"Ehime Children's Playground," a large children's hall of Ehime and "Tobe Hot Spring Yutori-kan," famous for its beauty-making springs are crowded with locals and tourists. "Michi-no-eki, Hirota Kyo-no-yakata" and "Hirota Exchange Center," located in Hirota District serve as exchange bases.

第二章

笑顔の景色

夢を描く若者たち

愛媛県立医療技術大学

医療分野で活躍する人材の育成
抜群の国家試験合格率を誇る

愛媛県立医療技術大学は、医療分野における専門的な学識と技術を持った優秀な人材を社会に送り出すことを目的に設立されました。

昭和63年の開学当初は短期大学でしたが、平成16年に4年制大学となり、10年後の平成26年にはさらに大学院を開設、研究面においても活発で充実した大学へと発展を遂げつつあります。

大学は、保健科学部内に看護学科と臨床検査学科の1学部2学科で構成されます。県内唯一の助産師養成機関である助産学専攻科をはじめ、看護、保健科学など高度な専門的知識と技術を学ぶ大学として、国家試験合格率、就職率とも毎年ほぼ100%という高水準を誇っています。

同大は、地域住民を対象に高齢者介護講座などを開く地域交流センターや、学外の人も利用できる図書館などを備え、地域に開かれた大学を目指しています。

01～03　毎年10月に開催される学生祭では、仮装大会や手話コーラスなどイベントも多彩。手話やボランティアなどサークル活動も活発に行われている

column

引く手あまたの卒業生

社会のニーズに応える優秀な人材育成を目的に開設された同校は、開学からこの間、着実な歩みで実績を上げてきました。

平成26年3月卒業の学生の国家試験合格率は、看護師98.4%、助産師100%、保健師95.2%、臨床検査技師100%。そして就職率は100%を記録。卒業生の多くが社会の中堅として活躍しています。

01

愛媛県立松山南高等学校 砥部分校デザイン科

県下唯一のデザイン科として、瑞々しい感性と優れた技術を育む

「さわやかな目・豊かな心・確かな手」を指導目標とする愛媛県立松山南高等学校砥部分校。昭和23年、当時の砥部中学校校舎に開校した定時制普通科の県立砥部高等学校が前身です。

昭和37年に全日制の愛媛県立松山南高等学校砥部分校（工芸科・家政科）となり、その後、家政科は廃止、工芸科はデザイン科に改称されました。昭和61年に現在の岩谷口に新築移転しました。

同校ではグラフィックデザインとクラフトデザインを中心に専門的な学習を行っています。選挙啓発ポスターや人権ポスターなど県内外のコンクールにも積極的にチャレンジし、大賞を含む数多くの受賞作を生みだしています。

アートフルな環境でみっちり学んだ3年生は、学習の総仕上げとなる愛媛県美術館での卒業制作展に向けて6コースに分かれ、培った技術と知識を余すことなく発揮して制作に取り組みます。

01 3年間の思いが詰まった卒業制作展。砥部分校で磨いた感性と技術がきらめく
02 瑞々しい感性が光る文化祭での作品展示
03 砥部焼作家の指導のもとで焼き物も作っている
04 登窯と水車が描かれた校舎の陶壁画はデザイン科のシンボル

column

大宮八幡宮への絵馬奉納

干支を描いた巨大な絵馬が、毎年、地元の大宮八幡宮に奉納されます。

タテ3m、ヨコ3.6 mの絵馬は、同校美術部員が制作したもので、年末に奉納され、境内で1年間飾られます。奉納は平成18年に始まりました。

04

03

02

University and High School Specialized Education
The Ehime Prefectural University of Health Sciences provides the specialized skills in medical fields such as nursing and clinical testing. Ehime Prefectural Matsuyama South High School Tobe Branch features development of a fresh sense of the creative arts as the only high school having a department of design in the Prefecture.

『太平記』で知られる大森彦七

千里城城主・大森彦七は、楠木正成を自刃させた人物として『太平記』に登場して、一躍有名になりました。その武勇伝は歌舞伎の演目にもなるなど、さまざまな伝説に彩られた人物です。

砥部出身の画家・矢野翠堂が描いた大森彦七と鬼女の絵馬（重光公民館所蔵）

千里城主の彦七 楠木正成を倒す

『太平記』に登場する大森彦七は、五本松の花畑に屋敷があったといわれる中世の豪族で、千里城の城主として砥部庄を治めた人物です。

南北朝時代、足利尊氏の北朝軍に属し、延元元年（建武3年・1336）の湊川の合戦でめざましい活躍をみせて、南朝の楠木正成を自殺に追いやったとも、その首をはねたとも伝えられます。

のちに南朝正統論の影響で悪人とみなされた彦七ですが、豪勇でならした人物にふさわしいさまざまな物語が砥部の地に残されています。

矢取川での鬼女との闘い 歌舞伎の人気演目に

『太平記』（神田本）は次のように伝えます。

合戦でみごとな闘いぶりをみせた彦七は尊氏から領地をもらい受け、その祝いとして猿楽の席を設けました。家来とともにその舞台に向かう途中で、若く美しい女性と出会い、猿楽に誘います。足元がおぼつかない美女を背負って歩いていると、美女はにわかに恐ろしい鬼となり、彦七を襲ったのです。力自慢の彦七が鬼を組み伏せたところに太刀を抜いた家来が近づき、鬼女は消え去りました。

また、猿楽からの帰り、矢取川で道に迷っていた美女を背負って川を渡ったところ、水面に鬼女の姿が映ったので剣を抜いて逃れたという物語も残っています。

猿楽が開かれたのは松前の金蓮寺であったとされ、そこから「大事金蓮寺」のことわざが生まれました。

この伝説は近世には舞踏劇に、明治になって福地桜痴により歌舞伎に劇化されて大当たりをとり、しばしば上演されました。

宮内に供養塔があるほか、美女が待ち伏せしたとされる重光の魔住が窪には、その霊を鎮めるため地蔵堂が造られ、歌舞伎俳優の松本幸四郎も来松の折に、ここを訪れています。

魔住が窪の地蔵堂はフジの名所　ここで鬼女が彦七を待ち伏せたとされる

Omori Hikoshichi, A Hero From The Past

Omori Hikoshichi, the lord of Seri-jo Castle who governed Tobe-no-sho, appears in “Taiheiki,” a military story during the Namboku-cho Period and famous in historical terms for bringing about the suicide of Kusunoki Masashige. His heroic story provides the foundation for a Kabuki performance.

砥部町名誉町民

Tobe Town Honorable Townspeople

砥部焼の近代化を進め、
地場産業の発展に寄与

梅野（うめの） 鶴市（つるいち）

1890 ～ 1969

明治 23 年（1890）11 月 23 日、大南に生まれる。21 歳の時に陶業窯元である梅野家の女婿となり、陶業経営に従事する。

大正 15 年以降、砥部町（村）議会議員を 5 期、町長を 3 期歴任し、戦中戦後の混乱期や昭和の大合併後の町政運営に優れた政治手腕を発揮した。

一方、産業面において、昭和初年の砥部焼不振の際には、組合による共同設備設置の推進や近代的坏土調整工場、釉薬・石膏工場などの整備、また、原材料・燃料用松割木共同購入などにより砥部焼の近代化と合理化によって打開を図るなど、地場産業の発展と自治行政に生涯を捧げた。大南陶祖ケ丘に銅像がある。昭和 44 年（1969）4 月 8 日没（78 歳）。藍綬褒章、勲五等雙光旭日章 （称号贈呈　昭和 44 年 2 月 14 日）

県議会議長に三度就任、
地方産業の振興に力を注ぐ

相田（そうだ） 梅太良（うめたろう）

1884 ～ 1963

明治 17 年（1884）3 月 10 日、原町に生まれる。東京専門学校に学んだが家業を継ぐため退学し、農業のかたわら酒造業を営む。37 年間にわたり、原町村の村長や県議会議員などの公職、農業会会長などを歴任する。県議会議員在職中にあっては三度議長に就任するなど、人格、識見および手腕ともに優れ、県政界の長老、重鎮として活躍した。

また、産業面においても、昭和 9 年に伊予果物同業組合長に就任し、満州や北支への販路拡大に努めるなど、地方産業の振興に精魂を傾けた。昭和 38 年（1963）1 月 10 日没（78 歳）。原町に頌徳碑がある。（称号贈呈　昭和 44 年 2 月 14 日）

1 万編を超える詩作で人々に
勇気と希望を与え続ける

坂村（さかむら） 真民（しんみん）

1909 ～ 2006

本名・昂（たかし）。明治 42 年（1909）1 月 6 日、熊本県玉名郡府本村（現在の荒尾市）に生まれ、昭和 42 年に砥部町に移り住む。

永年にわたる詩の創作を通して、万物に対する愛情をもって人間の生き方を説き、多くの人々に感銘を与えた。詩の愛好家によって建てられた「念ずれば花ひらく」などの詩碑は日本全国に分布し、外国にあるものも含めると 730 基を超える。

1 万編を超える詩は、あらゆるところで人生訓示として掲示されるなど、さまざまな形で人々に伝えられ、悩み苦しみに直面している人たちに生きる勇気と力を与え続けている。出版された詩集は、小学校の学習資料にも活用されるなど、教育文化の振興にも貢献した。平成 18 年（2006）12 月 11 日没（97 歳）。紺綬褒章（称号贈呈　平成 13 年 4 月 27 日）

現在の砥部焼の基礎を構築、
文化・教育にも多大な貢献

梅野（うめの） 武之助（たけのすけ）

1921 ～ 1999

大正 10 年（1921）12 月 6 日、大南に生まれる。窯元が数軒しかない戦後のどん底の時期に、中央から一流の陶芸家や工芸家を招くなどして、白磁に呉須で代表される現在の砥部焼の基礎を築いた。

また、町民の文化向上のため、砥部町文化協会の設立に努力し、昭和 58 年には同会会長、平成 4 年には同会名誉会長を務めるなど、伝統文化の保存、継承に尽力した。さらに、経済的理由により就学が困難な学生を支援するため、砥部町に多額の資金を提供した。その資金は、砥部町梅野奨学基金として教育の機会均等と有用な人材育成のために運用された。平成 11 年（1999）1 月 28 日没（77 歳）。大南陶祖ケ丘に顕彰碑がある。
紺綬褒章、黄綬褒章、勲五等瑞宝章（称号贈呈　平成 13 年 9 月 21 日）

第三章

山河の景色

清流が育むほたるの里

標高1、010mの北ケ森、885mの障子山（しょうじやま）など、周囲を高い山々に囲まれた砥部町は自然の宝庫。風光明媚な山河とその恵みに満ちています。闇にほのかな光をともして初夏の訪れを告げ、生命の神秘を見せるほたるは、清らかな水と空気に育まれた、自然からの贈り物です。

Town of Fireflies Nurtured by Fresh Streams

Tobe Town with scenic mountains and rivers is full of nature. In early summer, fireflies emitting delicate light in the evening hours show us the mystery of life. Firefly festivals are held throughout the Town.

清らかな水辺にすむ小さな命

上尾峠を分水嶺として、砥部地区は砥部川が盆地のほぼ中央を、広田地区では玉谷川が地域を貫流しています。

土壌にしみこんだ雨水が地表に現れて小さな流れとなり、水辺に宿る命を育み、田畑を潤しながら、やがて地域を代表する河川に集められます。

こうした山々からの清流に恵まれた砥部町では、毎年5月から6月にかけて自然の中でほたるを見ることができます。小さな光を明滅させるほたるの姿を求めて、町内外から多くの人が訪れるため、ほたるまつりも年々盛んになっています。外山、川登の坪内家、高市、玉谷で開催されるまつりは、都市住民との交流とともに、地域住民をもつなぐ場としてにぎわいます。

01

02

03

04

05

01 広田地区にはゲンジボタルとヘイケボタルが生息する
02 ほたるまつりでは、地域住民による夜店のほか、会場によっては演奏会なども行われる
03 玉谷にある鍛冶屋谷橋の欄干
04「ほたるの里」をアピール。総津・神の森大橋下の遊歩道にある
05 花の中で点滅するほたるの光。ほたるまつりの頃には風情ある光の点滅が、町内の川辺のそこかしこでみられる

第三章

山河の景色

四季のいろどり

自然と人の営みから生まれる美

歳月が創るダイナミックな自然 人工施設も観光資源に

雄大な山容で町のシンボルとなっている障子山、地球のダイナミズムに触れることができる衝上断層、岩肌が見事な造形を見せる仙波渓谷など、砥部町にはさまざまな自然の美がみられます。

加えて、柑橘や稲作など農業用水を確保するために人の手で拓かれたダム湖や溜池は、年月を重ねることに周辺の自然との調和が進んで、新たな観光資源としてその魅力を発揮しています。

また、「青いダイヤ」と讃えられる小梅をブランド化した七折では、広大な梅園が赤や白の可憐な花々で埋め尽くされ、その光景は桃源郷を思わせます。

01

02

05

04

03

01 急流が歳月をかけて創り上げた奇岩と、岩ツツジや紅葉など季節のうつろいも鮮やかな仙波渓谷は「伊予十二景」の一つ。神秘的な幽谷から多くの伝説が生まれた
02 七折梅園での梅まつりは毎年２月 20 日～３月 10 日に開催。約 30 種、16,000 本の紅白さまざまな梅が芳香を放つ
03 国の天然記念物「砥部衝上（しょうじょう）断層」。数千万年前の地殻運動により、古い地層が新しい地層の上に重なった逆断層
04 砥部のシンボルの障子山。皿ケ峰連峰県立自然公園に含まれ、標高 885 mの山頂からは瀬戸内海の島々が望める
05 雄大なコクゾ峰を背にした長曽（ながそ）池は、昭和８年に農業用に築造。オートキャンプもでき、県産の杉を使った東屋が平成 25 年に完成した
06 昭和 53 年完成の銚子ダムは、貯水量約 78 万 t の樹園地灌漑用ダム。ダム公園内に「砥部町民の森　木楽里（もくらり）」がある
07 権現山は鎖場のある山岳信仰の山。小型石鎚、広田石鎚とも呼ばれ、旧暦６月１日には「お山開き」が行われる

06

07

Natural Beauty of All Kinds

Tobe Town is full of dynamic natural beauty with grandiose mountains and rifts. In particular, Semba Valley is beautiful throughout the four seasons and Nanaore Plum Park, full of pretty red and white flowers in early spring are worthy of a visit.

02

03

第三章

山河の景色

山の産業と恵み

緑の保存と農地活用に取り組む

Industries and Blessings of Mountains

Greenkeepers from a third sector organization actively work to protect and grow forests in Hirota District and preserve the global environment. Artificial cultivation of jinenjo (Japanese yam) has grown to become an indigenous product of Hirota District.

01

06

05

04

健全な森を育て地球環境の保全に

森林は、再生可能な資源であるだけでなく、土砂の流出を防いで清浄な空気や水を育むなど、さまざまな機能を持っています。しかし、安い外国産材の流入により国産材の価格は低迷を続けており、山主の高齢化もあって、放置林は増える傾向にあります。

こうした森林の維持管理にあたっているのが、第三セクターのグリーンキーパー。広田村時代の平成4年に設立されました。

設立当初は手作業が主でしたが、10年ほど前から高性能の林業機械が導入されるようになり、現在はコンピューター操作で伐採から積み込みまで行うことができるなど、省力化が進んでいます。

作業は山主、森林組合、行政などからの依頼で行いますが、適正な間伐によって健全な森林を育て、豊かな緑を未来へつなぐ試みは、今後さらに重要になるでしょう。

研究会から始まった人工栽培

広田地区の特産品である「自然薯（じねんじょ）」の栽培は平成8年にスタートしました。

広田村時代、主要産物のクリ、タバコ、シイタケなどの価格低下に頭を悩ませていた農業者は、村のあちこちに自生する自然薯に着目。有志で研究会を立ち上げ、本格的な人工栽培が始まりました。

棒状の自然薯を作るために、現在は波板を使った人工栽培が行われていますが、そこに至るまでは試行錯誤の連続でした。

平成10年に生産販売組合を発足させ、翌11年には「第一回じねんじょまつり」を開催するとともに、贈答用品として企業への売り込みも積極的に行うなど、粘り強い取り組みによって知名度はアップ。今や「じねんじょまつり」は冬の風物詩として親しまれ、栄養豊富で味わい豊かな自然薯は広田を代表する農産物に成長、「愛媛のふるさと農産物」にも選定されています。

11

12

09

10

08

07

01 倒木でケガをしないよう、間伐作業は安全第一で行われる
02 たっぷりの水と森の栄養で立派に育ったヒノキ
03 グリーンキーパーのスタッフはそれぞれが得意分野を持つ。間伐のほか、搬出や林道の開設、林産物加工などを請け負う
04 樹勢や曲がりなどを吟味して伐採する木を決める。他の木を傷つけないように伐るのも技術が必要だ
05 わずかな時間で、伐採から枝打ち、決まった長さでのカットまで1台でこなす林業機械「ハーベスタ」
06 伐採した木は手際よく集荷場に運ばれる
07 秋から冬にかけて収穫される自然薯は、箸でつかめるほど粘りがあり、旨味と栄養がたっぷり
08～12　毎年12月上旬に道の駅ひろた「峡の館」で開催される「じねんじょまつり」では、自然薯の販売のほか、自然薯を使った料理の試食も好評

01

Industry and Blessings of Sato
In the satoyama district of Tobe Town, fruits and nanaore small plums are grown. Fruit growing is another core industry along with Tobe pottery and in recent years, cultivation and production of new breeds has increased. From nanaore small plums, processed goods such as plum syrups and jellies are produced.

里の産業と恵み

新たな挑戦で産業振興に

みかん栽培

町の主幹産業である果樹 新品種で活性化を図る

果樹栽培は砥部焼と並ぶ砥部地区の主幹産業です。しかし、価格の低迷や農業者の高齢化による担い手不足などにより、砥部町内での生産量は、平成18年と平成25年の比較でハウスみかんは半分に、伊予柑はおよそ3分の2に減少、全体では約1割減と減少傾向にあります。

こうした中、果樹農家が注目するのが、近年開発された愛媛果試第28号、はれひめです。

甘さ、香り、食感に優れた高級果実として贈答用を中心に需要が増えている愛媛果試第28号は、3・5tから220tに、また、オレンジ系の爽やかな香りが特長のはれひめは、同期間の生産量が32・2tから135tと急増しており、栽培農家の期待の高さがうかがえます。

消費者の嗜好やライフスタイルの多様化に応じたより良い商品を提供しようと、農業者は努力を続けています。

04

03

02

01 愛媛果試第 28 号がたわわに実ったハウス。果皮が薄く雨に弱いため、ハウスで栽培される
02 愛媛果試第 28 号は甘くジューシーで、ゼリーのような食感が魅力
03 果樹農家 3 代目の若手農業者、青木聡さん。水を切って糖度を上げるため、その調整が難しいという
04 傷をつけないよう、一つひとつ丁寧に収穫。収穫は 12 月いっぱい行われる

七折梅製品

七折小梅（ななおれこうめ）は「青いダイヤ」加工品も人気商品に

100年ほど前から栽培が始まったという七折地区の小梅は、皮や果肉が軟らかく、花のような芳しい香りから「青いダイヤ」と呼ばれ、愛媛県の「『愛』あるブランド産品」に認定されています。

組合員23名で構成する「農事組合法人ななおれ梅組合」では、有機質主体の土づくりや減農薬栽培に取り組み、安心安全で高品質の梅づくりに努めており、年間およそ100tの生産高を誇ります。また、小梅を使った加工品も続々と誕生、添加物を使わない自然の味で人気を博しています。

砥部の町に春を呼びこむ祭りとして定着した「七折梅まつり」は、約40haの敷地におよそ30種、1万6、000本の梅が咲き誇る七折梅園で開催されます。平成3年にスタートし、平成27年に25周年を迎えました。梅の種とばし大会や加工品の試食販売などが行われ、毎年4万人前後が訪れる人気のイベントになっています。

05 七折の組合事務所に併設された加工場で、週2、3日ほど作業を行う
06 ななおれ梅組合の皆さん。研修生の渡部祐衣さん（右端）は平成27年春から梅農家の一員に
07 煮沸殺菌前に冷やされる「ななおれ小梅ゼリー」。すっきりとほどよい甘さが魅力
08 「七折小梅（梅干）」「梅シロップ」「七折小梅（スタンドパック）」「梅肉」。この他に「シソふりかけ」を販売。産直市や県産品を扱うショップなど、松山市内および周辺各所で販売している
09 七折の小梅をイメージした「ななうめちゃん」松山南高等学校砥部分校の生徒がデザインし、平成24年に登場

流しそうめん

せせらぎに包まれて涼を楽しむ流しそうめん

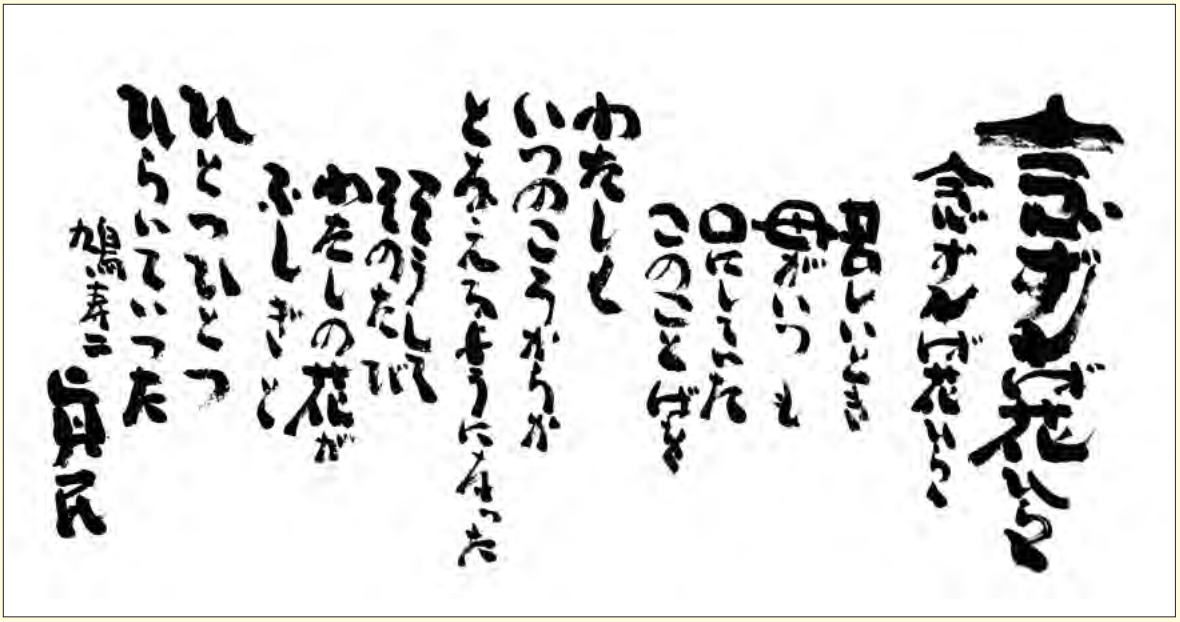
標高440mの権現山の麓で夏季に行われる流しそうめんは、30年ほど前に広田地域の活性化のために始まりました。

地元の大豆、シイタケなどを使った素朴な風味が魅力の出汁（だし）とともに、爽やかな川音に包まれて味わうそうめんは絶品とあって、毎年、1万人ほどが訪れます。

10 地元の女性グループ「はいからグループ」が運営する流しそうめん

第四章

ことばの景色



心に響く珠玉の言葉

「念ずれば花ひらく」で知られる詩人・坂村真民さんは、愛媛県で高校の教師をしながら詩作に励みました。終(つい)のすみかを砥部に定めた真民さんは、この地で詩境を深め、詩人としての花を開かせました。

求道の人生から生まれた詩

熊本に生まれた坂村真民さんは、縁あって、昭和21年、37歳の時に一家で愛媛県三瓶町(みかめちょう)にやってきました。女学校の教師をしながら妻と幼い子ども3人を抱えた生活はひどく貧しく、吹き飛ばされそうな家は、蚊とノミとダニ、ナメクジやムカデに苦しめられるという暮らし。そんな極貧生活を笑い飛ばすかのような詩を詠む一方で、真実の自己をみつけたいという人生の悩みに直面していました。

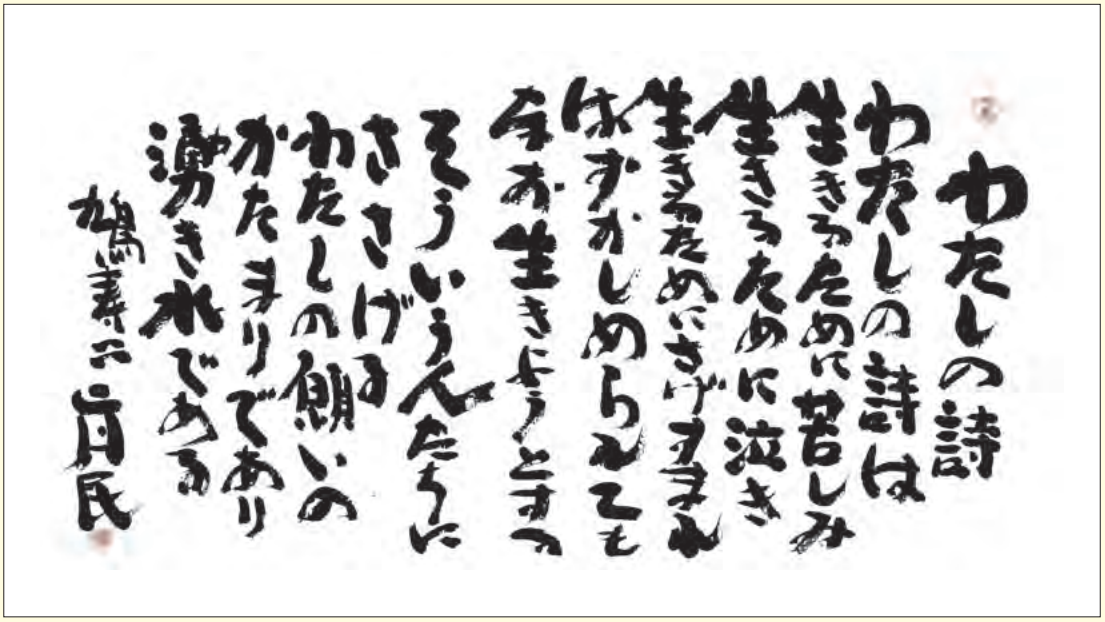
やがて転勤のために吉田へ居を移します。40代の真民さんは人生の真実をつかむべく、参禅したり経典を読んだりと厳しい鍛錬の

01

02

01 落ち着いた平屋の建物
02 清らかな空気あふれる展示室
03 真民さんはタンポポや朴の花を愛した。記念館には朴の木が植樹されている

Words Resonating with the Heart
Sakamura Shinmin, a poet known for his “If you pray for realization of your dream, it will come true,” lived in Tobe Town to the end of his life and deepened his locally grounded flavor of poetry and flowered as a poet. In Tobe Town, his memorial hall is built.



毎日で、それがもたらした病苦との壮絶な闘いが続きました。

ようやく病が癒えたとき、真民さんの心にも春が訪れます。宇和島に移ってからは、一遍上人のあとを継いで、詩の賦算（ふさん）（※1）を行う決意をしました。

定年を迎えた真民さんは、住まいを砥部に移しました。次第に全国でその名前が知られるようになり、人生の開花期を迎えます。砥部での生活は、亡くなるまで約40年間におよび、全国にファンが増えていきました。

このような求道の人生から生まれた真民さんの詩は、身近な家族や自然を詠んだものから、人生や人類、宇宙の真実に及んだ深遠なものまであり、苦しみや悲しみに沈んでいる人の生きる杖となってきました。ときに優しく寄り添い、ときに厳しく励まし、どれほど多くの人が、真民さんの詩を心の支えにしてきたことでしょう。

真民さんの詩は表現がやさしいので、小さな子どもからお年寄りまでに口ずさまれ、愛されています。しかし、自然の摂理や人生の理法をとらえており、読み手の感応する心次第で、深く大きく響きわたるのも、真民詩の特筆すべき点です。

※1 賦算：お札を配ること

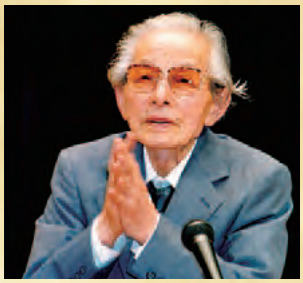
真民碑は日本をはじめ世界中に 730 基余りある。写真は百番碑と開花亭にある朴庵。 真民さんは長い間、朴庵で講話を行った

清浄な気品に満ちている坂村真民記念館

のどかな砥部焼の里にある坂村真民記念館は、東日本大震災の被災者に祈りの言葉を届けたいと、平成 24 年 3 月 11 日に誕生しました。建物は木をふんだんに使った温かな雰囲気で、真民さんの詩の世界を体現した清らかで静謐（せいひつ）な空間。展示の中心は真民さんがみずから筆をとった詩墨作品で、心に響く詩と丸みを帯びた独特の書をじっくり味わうことができます。

坂村真民 プロフィール 明治 42 年（1909）－平成 18 年（2006）

熊本県玉名郡府本村（現・荒尾市）生まれ。神宮皇學館（現・皇學館大学）を卒業後、熊本で小学校の教員になり、その後、朝鮮に渡って師範学校の教師になる。終戦後、朝鮮から引き揚げて愛媛県へ。高校の教員として国語を教えてきた。58歳の時、砥部に移り住み、97歳で永眠。仏教伝道文化賞、愛媛県功労賞などを受賞。（P21参照）



漫画家 黒鉄ヒロシさんがみた真民さん

道の道

黒鉄ヒロシ

解説書というか、説明書というか、はたまた心象風景ふうにまとめたというおうか、『念ずれば花ひらく』として一冊を編むにあたって坂村真民さんの九十七年の人生を各資料からなぞってみた。

一本の道が見えた。

思考を「道」にまで高めるにも、発想あるいはきっかけがあるはずで、全ての場合が人生特有の不条理の克復を目指している。不条理を解こうとする時、必ずや立ち塞がるのが言語との関係である。言語によってかけられた魔法を、同じ言語で解こうとする無理によって多くの道づくりは途中で放棄されるか、出来上っても陳腐なものとなる。

奇跡的に突破したヒトによって何本、何十本かの道が残った。出来、不出来と好悪はさて措き、キリストの道であり、仏陀の道であり、世界中の各宗教の道である。

ある者は科学にそれを求めようとし、またある者は美の中に探した。

ここに百人のヒトあらば、百本が出現するはずなのに、道の数は減る。他者の道をなぞろうとするヒトのあり。

何故か他者の道を行く場合、ほとんどが他の道との対立を生じる。

真民さんは一本の道を残された。

今、我々は真民さんの道を行くのではなく、得るものはヒントに留め、我道を探し進むべきである。

百人のヒトがいて、百本の道ができる。

千人なら千本、万人なら万本の道ができてこそ、地上に絶対の平和と死を恐怖することのないユートピアが生まれる。

キリストも仏陀も、他の宗教も、思想哲学も、そして真民さんの説く道も、奥義は全てここに収斂する。

黒鉄ヒロシ プロフィール

昭和20年（1945）高知県生まれ。代表作に「新選組」「坂本龍馬」「赤兵衛」などがある。「千思万考」など著書も多数。平成16年紫綬褒章受章。

黒鉄ヒロシさんが描いた坂村真民さんの漫画
（A5判、72ページ　坂村真民記念館で販売。）

The Poet Shinmin depicted by Kurogane Hiroshi

Kurogane Hiroshi, one of the leading cartoonists in Japan, drew a book of manga as a practical guide about Sakamura Shinmin by summarizing it as imagined scenery.

民話の里ひろた物語

民話が語るいにしえの世界

01

物語に込められた昔の暮らしと心模様

広田地区には数多くの民話が残されていることから、それらを通して地域住民のふるさと再発見に、また、地域の魅力を外部に発信して活性化につなげようと、平成24年度に「民話の里づくり」事業が行われました。

広田の民話を収めた冊子『民話の里　ひろた物語』は平成25年1月に発行されました。地区の主な民話20話が掲載されているほか、14カ所に設置された音声装置が一目で分かる「ひろたの民話地図」、地区に9つある集落が先祖代々大切に守ってきた光景や文化財などから、たった一つを選んだ「お宝自慢」も掲載。手軽なハンディタイプの1冊は、広田めぐりのガイドブックの役割も果たしています。

そして、各所に置かれた音声装置では、冊子に掲載された1話2分の民話を、タレントらくさぶろうさんの軽妙な語りで楽しむことができます。

道の駅ひろた「峡の館」の装置には全20話が入っており、他の装置では、その地域にちなんだ物語を中心に、3話ずつ収められています。

この音声装置に電源はありません。ハンドルを20回まわすと1話が再生される仕組みです。

緑と水に恵まれた広田地区で、自然とともに生きてきた人々の暮らしぶりや思いが込められた民話に、通りすがりの人が車を止め、のんびりと耳を傾ける光景が見られるようになりました。

02

01 仙波渓谷の東屋に置かれた音声装置で、仙波にまつわる昔話に耳を傾ける子どもたち
02 音声装置は広田地区の 14 カ所に設置。1 台に 3 話が収められ、電気を使わず、ハンドルを回してお話を聞くエコ仕様

column

民話の世界を活字で味わう

冊子『民話の里　ひろた物語』には音声装置と同じお話が収められていますが、民話の世界をより深く味わうための注釈が付いています。砥部町役場、同広田支所、道の駅ひろた「峡の館」、文化会館などで販売（1冊 200 円）。

Town of Folklores
In the Hirota District, folklores remain. Voice information devices are installed throughout the District as a town folklore project allowing locals and visitors to hear the tales.

第五章

つながりの景色

地域を結ぶ陶街道五十三次

「陶街道五十三次」は町内の名所旧跡を回るスタンプラリー。平成17年1月、砥部町と旧広田村の合併を機にスタートしました。何度回っても新しい発見がある、「学び」と「遊び」の両方を兼ね備えたオリエンテーリングです。

平成21年には、国土交通省の「日本風景街道」に登録されました。

53 Stations of the Tokaido (Stamp Rally)

53 Stations of the Tokaido, which started with an occasion of the coming together of old Hirota Village with Tobe Town offers a stamp rally with 53 walking locations of scenic spots and historic sites in the Town. It also serves as an orienteering activity having the features of both study and play.

05

03

01

04

02

01, 02 お休み処の千足休憩所
03 国道 33号の中央分離帯に設置されている砥部焼モニュメント
04 町のここかしこに五十三次の案内板がある
05 陶街道夢タワー「愛伊砥くん」。陶街道の出発点にあるシンボルタワーで平成20年2月に完成した。直径1.4m、高さ 14.9mある。砥部焼の陶板 560枚を使用。絵柄は町花である梅の花や、町のキャッチフレーズ「清流とほたる 砥部焼とみかんの町」をモチーフにしている

名所旧跡をくまなく結ぶ感動のオリエンテーリング

陶街道五十三次は、国道33号と国道379号沿いに点在する、自然・歴史・文化・砥部焼の53ポイントを、自由に回るスタンプラリー。

砥部の魅力を集めた53ポイントは広範囲にわたっており、とても1回では回りきれません。興味を持ったところだけ行くのもよし、何日かに分けて順番に回るのもよし。

各ポイントにはイラストが描かれたスタンプがあるので、訪ねたあかしに押印しましょう。回る手段は自由、期限もなし。気のおもむくまま、足のおもむくままに回ると、「こんな素敵なところがあったんだ！」と新しい発見の連続です。江戸時代、人々が東海道を旅したように、砥部陶街道を回ってみると、この町の奥深さを味わうことができるでしょう。

町内には陶街道の青いのぼりがはためき、辻々には案内板が設置されています。ブルーを基調にした標識が町をすがすがしく彩り、小さな感動の旅に誘ってくれるかのようです。

column 砥部焼の里ゾーンを歩こう

07

陶街道五十三次の中心となる「砥部焼の里ゾーン」には、11ポイントが集中しています。11（イレブン）ウオークとよばれる約1時間のコースをそぞろ歩けば、のどかな里山と焼き物アートに出合います。まさに砥部の真髄に触れることのできるエリアです。

06

06 11ウオークのパンフレット
07『陶街道五十三次しらべ帖』五十三次のそれぞれのポイントについて詳しく、かつコンパクトに説明した解説書。巻末にはスタンプの押印ページもある

陶里をめぐる

砥部町早わかりマップ

自然あり、歴史あり、文化ありの砥部町は南北に細長く広がる焼き物の町。
窯元を訪ねるもよし、秘境の趣き漂う自然にひたるもよし。
思い思いに砥部の魅力を味わってください。

松山市へ
松山 I.C
大洲市へ
陶街道夢タワー「愛伊砥くん」
「念ずれば花ひらく」百番碑(開花亭)
1
2 赤坂泉
大森彦七伝説の魔住が窪
理正院と麻生の金毘羅さん
拾町
砥部川
「ようこそとべ町へ」モニュメント
3 愛媛県総合運動公園
4 えひめこどもの城
上原町
5 水満田古墳公園
砥部焼陶芸館
7 愛媛県立とべ動物園
6 大森彦七供養塔
七折
ミュゼ里山房
文化会館の井上正夫胸像と資料室
千足
8 七折梅園
9 砥部町庁舎(四季山水陶壁画)
北川毛
千足休憩所
砥部地区
外山
大南
五本松
12 梅山大登窯(梅野精陶所)
53
砥石山公園
砥部焼の窯元は、大南・五本松・北川毛一帯に集中しています。
坪内家
万年
13 銚子滝
銚子ダム公園
大南・五本松地区
大宮八幡宮
[本陣]砥部焼伝統産業会館
砥部町商工会館
JA砥部の陶壁画と映写機
とべむかしのくらし館
初雪盃酒造資料館
五本松
10 陶板の道
大南商店街モニュメント
陶里ケ丘
手づくり醤油工場(佐川醸造)
砥部町陶芸創作館
陶祖ケ丘
コクゾ峰
広田地区
山村留学センター

13

14

15

とべの歳時記

四季折々の祭りとイベント

春夏秋冬それぞれに行われる祭りやイベントは、
地域の魅力が存分に味わえる行事。
町内外からやってくる人たちの笑顔がはじけます。

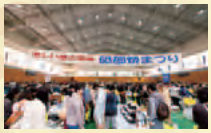
2月 如月忌（きさらぎき）

砥部町出身の名優・井上正夫の命日である２月７日に、墓参のほか、献句、献歌、講話などが行われ、故郷が生んだ偉大な俳優を偲ぶ。（P15 参照）

七折梅まつり

毎年２月 20 日から３月 10 日、七折梅園で開催。約 30 種およそ１万 6,000 本の梅の花が咲き誇る会場では、期間中に梅の種とばし大会や餅まきなども行われる。（P25、P29 参照）

4月 砥部焼まつり



４月第３土・日曜開催の一大イベント。陶街道ゆとり公園をメイン会場に、日用食器から高級品まで約10万点、約 100 軒の窯元が感謝価格で販売するほか、新作展や物産品の販売なども行われる。（P11 参照）

5月 ほたるまつり

５月下旬～６月中旬に開催されるほたるの観賞会。砥部地区では外山、川登の坪内家、広田地区では玉谷、高市、峠の館で実施される。（P22、23参照）

7月 権現山流しそうめん

７月上旬～９月上旬、標高 440 m の権現山のふもとで行われる。毎年１万人前後の人が素朴な味と涼を求めて訪れる。（P29 参照）

8月 七夕まつり

各店が工夫を凝らして作る笹飾りと提灯が商店街を彩り、広田交流センターを会場に夜店やカラオケ大会などのイベントで賑わう。

11月 秋の砥部焼まつり

11 月第１土・日曜に開催。伝統産業会館周辺を歩行者天国にして実施され、約 60 の窯元による対面販売が好評。（P11 参照）

砥部陶街道文化まつり

11 月第１土・日曜に、特産品や新鮮な農林産物をお手頃価格で販売するほか、町民による芸術文化の展示や活動成果の発表もある。

12月 じねんじょまつり

12 月上旬に道の駅ひろた「峠の館」で開催。広田地区の特産品である「じねんじょ」の販売のほか、じねんじょを使った料理の試食、ゲーム、バザーなどが行われる。（P27 参照）

四季を通じて行われます

【とべ日曜市】

奇数月第２日曜に、大南のとべ日曜市会場で実施され、新鮮野菜や果物、手づくり惣菜などを販売する。

【川登市場】

毎月第二日曜日、旧庄屋「坪内家」を会場に、屋敷の保存活用に取り組む住民グループが野菜の販売を行うほか、農作業体験などもできる。

新しい砥部物語が始まった

住民と行政が手をとって、理想の砥部を創っていこう
「砥部焼と豊かな自然、みんなで創る陶街道」

砥部町総合計画

砥部町では平成 20 年に、町行政の方向性を示した 10 カ年にわたる総合計画を策定しました。住民の皆様が元気で生き生きと過ごし、安心して暮らしていけるまちづくりの実現を目指したものです。

「砥部町総合計画」は住民と行政それぞれが役割分担をしながらまちづくりを進めるための基本方針です。その骨子をご紹介します。

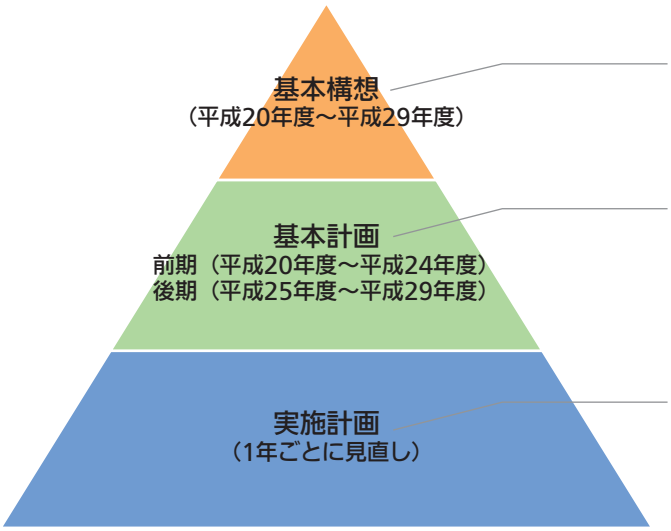
Tobe Town General Plan
Tobe Town established in 2008 a general plan indicating the direction of the administration of the Town over the next 10 years. This is the basic policy for townspeople and the administration to promote town development by sharing roles and aims to form a new unique town exerting the characteristics of the region.

策定の背景

平成17年1月1日に旧砥部町と旧広田村が合併して誕生した砥部町。住民の価値観やニーズが多様化しているため、従来のように行政主体の手法では限界があり、住民と行政の役割分担を見直す必要に迫られました。また、人口減少・少子高齢化・高度情報化・環境問題の深刻化などの社会情勢の変化や、地方分権の進展・厳しい財政など行政サイドの変化にも、対応する必要が出てきました。

総合計画はこうした状況を踏まえて、地域の特性を活かした個性あふれる新しい町の形成を目指しています。

計画の構成



基本構想

まちづくりの基本的な理念を示し、それに到達するための施策の大綱を定めたもの。

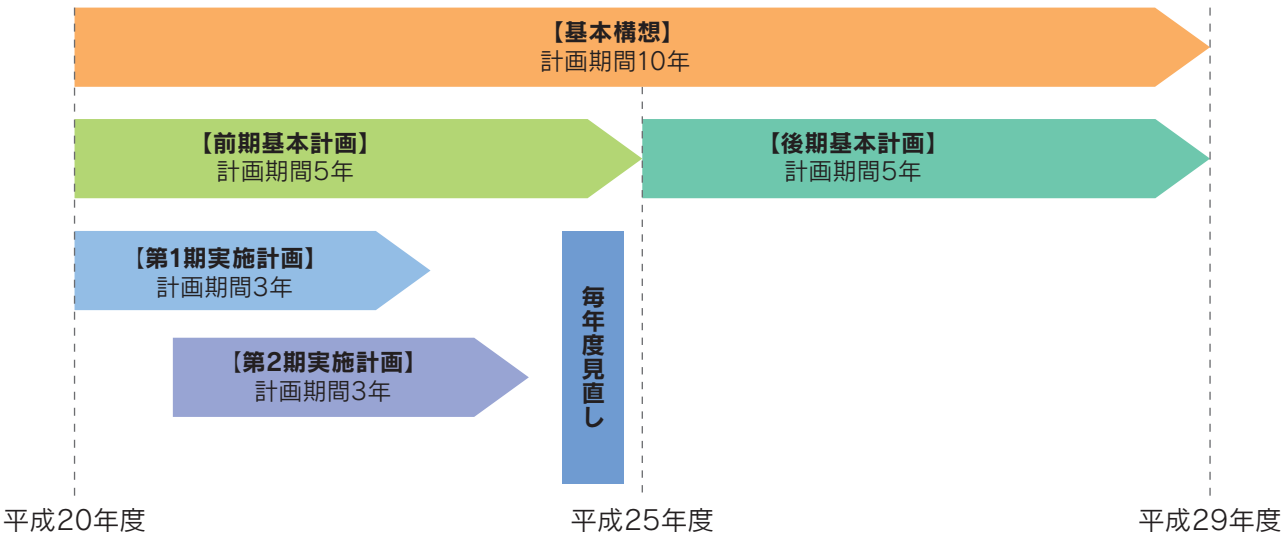
基本計画

基本構想を受けて、その目標達成のために必要な基本的施策の方向や主な事業内容を、総合的かつ計画的に定めた中期的な計画。

実施計画

基本構想、基本計画で掲げた方針の実現を目指した、具体的に進める事業３年の計画。１年ごとに見直しを行う。

計画の期間



基本理念

「安心・安全」を実感できるまちづくり

保健・医療・福祉などの社会基盤面の安心・安全に加えて、防犯・防災、環境保全、食、就労、何よりも大切な人権の尊重と、あらゆる分野において「安心・安全」を基本的な価値観と位置づけ、まちづくりを進めます。

自立と協働によるまちづくり

これからのまちづくりは、まちづくりの主役としての住民と、それを支える行政とが信頼で結ばれ、協働で進めていくことが重要です。効果的・効率的な行財政運営を行うことはもちろん、住民参画の仕組みづくりを行い、協働のまちづくりを進めます。

豊かな自然を「守り・伝える」まちづくり

本町の豊かな自然・景観は心の安らぎを与え、豊かな心を育みます。また自然からの恵みは生活に潤いを与え、伝統産業を支えています。住民一人ひとりがこの豊かな自然を限りある資源だと認識し、自然環境・景観の保全と活用、循環に取り組んで次代に伝えます。

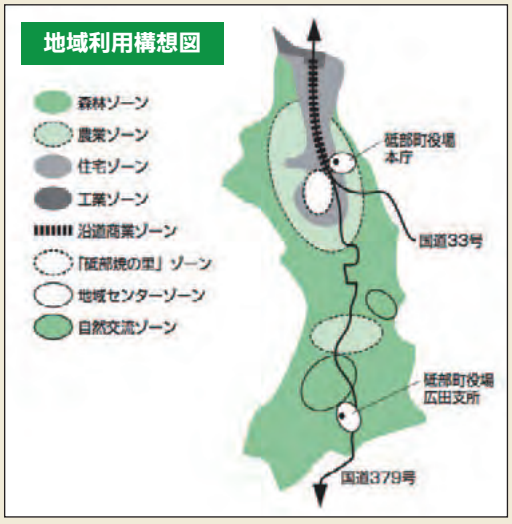
地域資源を活かしたまちづくり

「砥部焼」をはじめとした地場産業、えひめこどもの城や県立とべ動物園、豊かな自然環境を活かした観光業など、住民、事業者、教育機関など多様な主体が有機的に連携して、地域資源を活かしたまちづくりを進めます。

将来像：砥部焼と豊かな自然、みんなで創る陶街道

砥部焼、ふるさとの原風景を擁する自然、賑わいどころの陶街道。これらを核として、松山近郊という立地を活かし、地域内外の交流活動を積極的に推進させることで、新たな地域の個性を創造します。

実現に向けて



[協働の考え方]

これからは「個人の自立性を尊重し、個人で解決できないことは家庭、家庭で解決できないことは地域、地域で解決できないことはボランティアやNPOなどに、それでも解決できないことは行政が補完する」という考え方が基本。仕組みづくりを担う行政と自治の主体である住民が目指すべき将来像を共有し、役割分担をする「協働社会」を目指します。

[土地利用の方向]

山林や河川、農地や山林を保全して次代に引き継ぎます。市街地や主要集落の基盤整備、中山間地域での定住環境の整備を進めます。また、災害に強いまちを目標に基盤施設の整備や防災対策を進め、災害予防のため保全が必要な地形は開発を抑制します。

基本計画①

住民と行政との信頼でつくる地域経営システムの構築

協働によるまちづくりを進めるには、住民と行政との信頼関係が基本となります。そのためにはまず、「住民参画の仕組みとまちづくりへの共通意識」「安定的な行財政運営」が重要となります。

住民をはじめ、自治会、各種団体、事業者、行政などまちづくりを担う多様な主体が、互いにまちの将来像と役割を共有し、その達成に向け、本町の地域資源を最大限に活用し、まちづくり活動が行えるよう体制づくりを進めます。まちづくりに関する情報を積極的に発信するとともに、住民側からもインターネット等を通じてまちづくり情報が閲覧できる環境を整えます。

さらに、安定的な行財政運営を実現するため、効果・効率性を重視した施策の展開とそれに見合う職員資質の向上を図り、信頼される行財政運営を実現し、協働による「地域経営」の実施を目指します。

施策 1　住民自らがまちづくりに参画できる仕組みづくり
施策 2　「効果・効率」重視の行財政経営

Establishment of a Regional Management System based on Trust between Townspeople and Administration
The aim is to set up a mechanism in which townspeople can participate in the town development for themselves and carry out management of the administration and finance, focusing on effect and efficiency.

基本計画②

だれもが元気に安心して暮らせる環境の整備

【保健、医療、福祉】

高齢化が進み、中長期的に人口減少社会を迎える本町では、高齢となってもいかに健康であり続けることができるか、元気に暮らし続けることができるかが大切になります。そのためにはまず、子どもの頃から「自分の健康は自分で守る」という意識を育て、年齢に応じて適切な健康づくりが行えるようにしていくとともに、必要に応じて適切な医療を身近な地域で受けることができるよう、環境整備に取り組みます。

さらに、だれもが生きがいを感じ安心して暮らすことができるよう、一人ひとりが互いに助け合い支え合う地域福祉の充実を図るとともに、高齢者や障害者に対する福祉サービスや安心して楽しく子育てができる環境の充実を図ります。

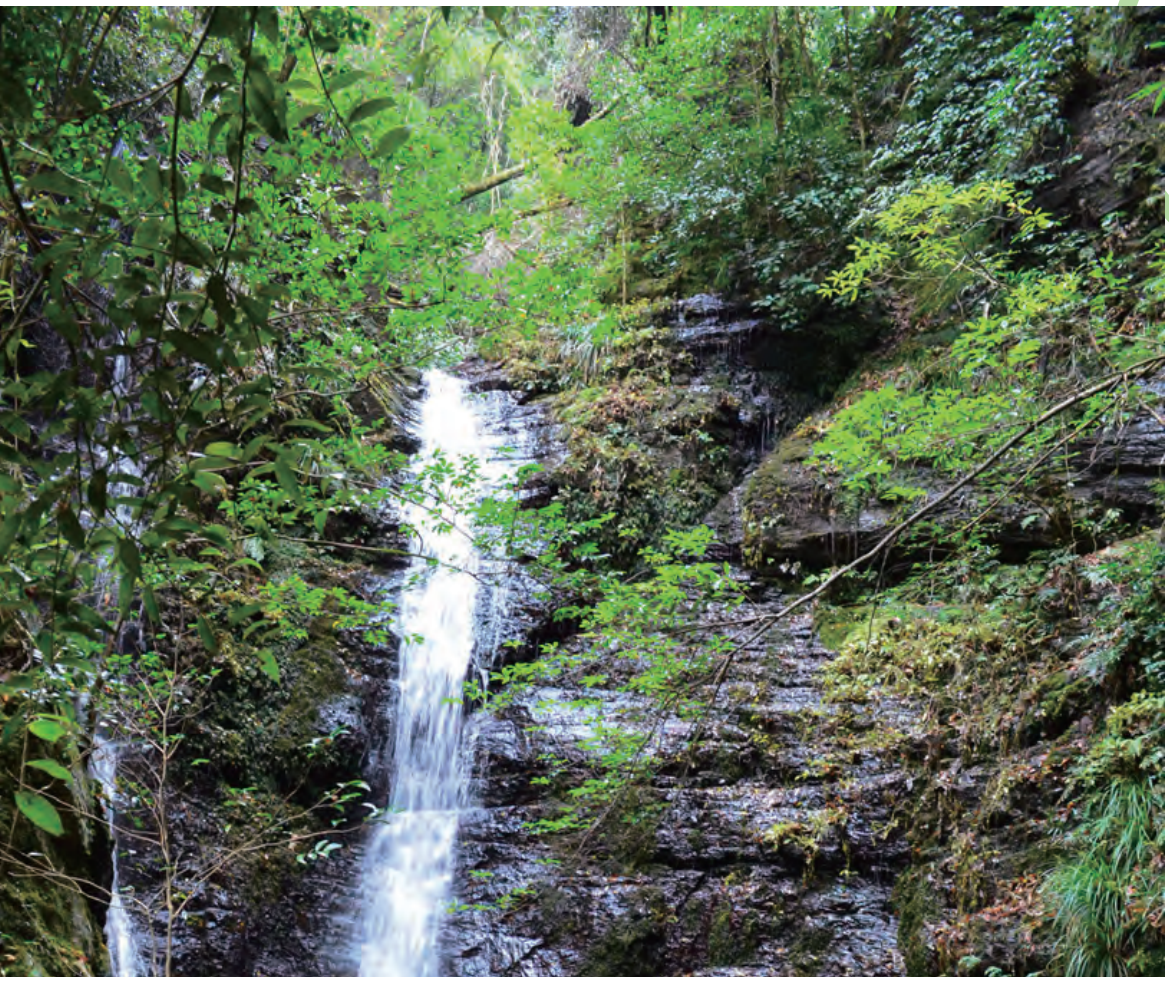
関係機関や各種サービスと地域ぐるみの連携を図って、効率的・効果的な福祉の向上に取り組みます。

施策1　生涯健康づくりの推進
施策2　笑顔のみえる「福祉のまち」づくりの推進
施策3　地域で支え合う温もりのある福祉社会づくり

Improvement in the Environment in which Everyone can Live Securely in Good Health
In the field of health, medical and welfare, we aim to promote life-time health and develop a warm welfare society supported by the region.

基本計画③

豊かな自然が生きる潤いある環境の整備



［生活環境、都市基盤］

本町に暮らす住民のだれもが、豊かな自然のなかで潤いある生活を享受しつつ、安心、安全、快適な生活を送ることができるよう、住宅、上下水道などの住環境や道路交通網の整備、また、本町の歴史風土に調和した良好な景観形成を推進するとともに、自然環境の保全、防災・防犯対策の充実など生活環境、都市基盤の整備を進め、豊かな自然が生きる潤いある生活環境の実現を目指します。

人が暮らしやすく、自然環境に負荷をかけないために、「人へのやさしさ」と「地球へのやさしさ」の二つの視点を持って生活環境の整備を行います。

また、防災、交通事故防止、防犯体制などの強化を図る一方、地域間の活発な交流を支えるために、道路網、交通網、情報網の整備を重点的に進めます。

施策1　人と地球にやさしい環境の整備
施策2　ゆとりを持って暮らせる安心・安全の確保
施策3　地域基盤の整備

Improvement in an Affluent Environment where Rich Nature flourishes

For the living environment and urban infrastructure, based on a philosophy of being kind to people and the earth, we will aim at securing safety and security by prevention of disasters, traffic accidents and strengthening our crime prevention system.

基本計画④

地域で育て地域で育つ環境の整備

［教育、文化］

誇りある地域、そして住み続けたいと思う魅力的なまちづくりを進めるためには、人づくりが大切です。本町に暮らすすべての住民が、まちの現在と未来を担う大切な「力」であり、教育はその「力」を育む最も重要な営みです。

そのため、「まちづくり」は「人づくり」であるという理念に基づき、本町に暮らす住民一人ひとりが様々な学習や活動、交流を通じてお互いの基本的人権を尊重し、互いに学び合い高め合うことができるよう、学校・家庭・地域の連携体制を構築し、地域の文化や歴史、施設、人材など、地域の資源を最大限に活用した生涯にわたり学び続けることのできる学習環境を整備します。

充実した余暇活動、国際化や情報化に対応できる人材育成、伝統文化の掘り起こしと保存伝承、スポーツ活動の支援などに力を入れて進めていきます。

施策 1　地域で学ぶ生涯学習環境の整備・充実
施策 2　学校教育の充実
施策 3　地域と織りなす文化の振興
施策 4　スポーツ・レクリエーションの振興

Improvement in the Environment grown by the Region and growing in Region
In the field of education and culture, we aim at enhancement of a life-learning environment and school education, promotion of regional culture and sports and recreation.

基本計画⑤

賑わいを呼び活力のある産業の育成

［産業、観光］

本町には、「豊かな自然」、それを活かした「農林業」、伝統産業である「砥部焼」、そしてこれら地域資源を活用した「陶街道」などの観光等、内外に誇れる様々な資源があります。また、都市近郊という立地面にも恵まれていることから、これら地場産業の銘柄化（ブランド化）、高付加価値化を推進するとともに、地場産業、観光産業、住民が一体となって魅力ある交流を生み出すことにより、賑わいを呼び活力ある産業の育成を図ります。

農業においては、都市近郊という立地を活かしながら、農産物の産地化、銘柄化を目指し、生産体制の強化、担い手の育成、基盤整備、支援体制づくりなどに取り組み、林業では、計画的な林業振興と森林の機能向上を図り、美しい緑のまちを目指します。

また、総合観光資源「陶街道」を中心に、商業・工業・観光産業が一体となって活気あるまちを目指します。

施策１　活力を生む農業・林業の振興
施策２　賑わいをつくる商業・工業・観光の振興

Development of Vigorous Industries which Bring Out an Energetic Feeling
In the field of industry and tourism, we aim at promotion of agriculture and forestry creating vitality and promotion of commerce, industry and tourism that brings out an energetic feeling.

みんなが主役のまちづくり

親子二世代で広田の高原野菜をブランド化

相原 利雄さん（63歳）
相原 雄一さん（36歳）

キャベツ栽培は約2.5ha、ホウレンソウは約1haの施設栽培を行っている

「17歳で就農してから高原野菜に取り組み、ブランド化にこぎつけました。寒暖の差や日照時間の長さに加え、鶏糞、カヤ、ワラなどをすきこんだ畑のおかげです。集落を守り、人づくりと環境づくりに余生を過ごしたいですね。」（利雄さん）

「農業大学校のあと海外研修を経て故郷に戻りました。自然相手は苦労もありますが、メリハリがあるし、自分が育てた野菜を喜んでもらえるのが何より。今後は地域の若手農業者と共に法人化を目指します。」（雄一さん）

楽しい時間を分かち合う「にこにこサロン」を主宰

土橋 桂子さん（76歳）

サロンの目玉はハンドベル。福祉まつり、芸能発表会などで披露

「平成22年に始まった『頭ノ向にこにこサロン』では月2回の午前10時～午後3時、最高齢93歳を交えて20名あまりが健康チェック、体操、ゲームなどでにぎやかに過ごします。内容は皆で相談して、得意な人が先生になるんですが、アイデアが尽きて困ったことはありません。みんなが主役のサロンですから、代表の私は裏方に徹して、『今日も楽しかった』と言っていただくことだけを考えています。」

助けたり助けられたりのファミサポ制度を利用

松島 智子さん（31歳）

1歳から8歳まで5人の子育て中。育児サークル「恐竜クラブ」でのひととき

「趣味の時間をもつため、数年前からファミリーサポート制度の利用を始めました。町のサポートセンターが調整を行い、相談にも応じてくれるので心強いですね。利用者とサポート会員に分かれますが、両方の登録も可能です。今はサポート会員として、同年代のお子さんの面倒を見ています。急用や体調を崩した時など本当に助かりますので、利用者がもっと増えるといいですね。」

地域に密着したオリジナルな教育活動

三者が力を合わせて子どもを育てる 高市小学校／山村留学センター

02

03

01

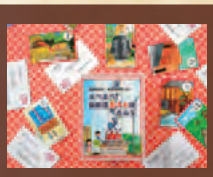
平成４年に始まった山村留学制度では、日本各地から集まった小学生が山村留学センターで共同生活をし、高市小学校に通学します。

コミュニティの絆が強い高市地区では、以前から、地域の全戸がＰＴＡ会員として小学校の教育活動を支援してきました。こうした背景をもつ高市小学校では、学校、地域、山村留学センターの三者が歩調を合わせ、数々の交流・体験活動を行っています。

５月の「子どもの日まつり」に行うミニ運動会、敬老会のお年寄りと交流するクロッケー大会、しめ縄飾り作り、ＯＢも出演する２月の学習発表会など、年間通して多彩な活動が繰り広げられます。

山村留学センターができたことで、中断していた秋祭りの伝統行事「舎儀利」も復活するなど、同センターは地域活性化の一翼も担っています。

column
とべとべ陶街道五十三次カルタ



町内の小・中学生が制作

砥部町内全小・中学校の児童、生徒が、町内の見どころを言葉と絵で表したカルタです。自然や歴史、文化、特産品など、砥部の魅力を満載したカルタで休み時間に楽しむ児童の姿も見られます。学校教育課にて販売。

01 「子どもの日まつり」は地区をあげて留学生を迎え入れるイベント
02 学習発表会は、しし鍋やもちつき、出し物でにぎわう。
生徒によるオペレッタは特に盛り上がる
03 留学生が共同生活を送る山村留学センター

School Education rooted in the Region
At elementary and junior high schools in the Town, original efforts have been made rooted in the region. In particular, at Takaichi Elementary School, which incorporated a mountain village study program, elementary school students from all over Japan come to spend time in a communal life atmosphere.

地元の食文化、歴史、人に学ぶ 宮内小学校

平成18年になおれ梅組合から贈られた6本の梅の木。その実で３年生はシロップ作り、６年生は七折梅園で親子そろっての収穫（写真）と梅漬け作りなど、ユニークな試みが続けられています。このほか、詩人・坂村真民の詩と人生に学ぶ機会も設けています。

地域学習で故郷に愛着を 麻生小学校

３年生を対象に、地域のスペシャリストを招いて体験学習を行うほか、町内に残されている民話を学んで、その舞台となった場所を訪ねる「陶街道五十三次めぐり」など、地域の魅力を再発見する多彩な試みを展開しています。

ボランティアによる教育支援 砥部中学校

同校では平成26年、地域ボランティアが学校を支援する「とべっ子志縁倶楽部（しえんくらぶ）」を結成。昼休みに開放される図書館での運営補佐（写真）や、放課後の自学自習の補助、街頭で生徒の登校を見守るなどの活動が行われています。

受け継がれる太鼓クラブ 広田小学校

全校児童による「たちばな太鼓クラブ」は平成８年に作られました。地域の指導者のもとで週１回の練習を重ね、学習発表会やひろたフェスタなどで演じます。同校ではふるさと学習にも力を入れており、その成果を学習発表会で披露しています。

伝統芸能の担い手に 玉谷小学校

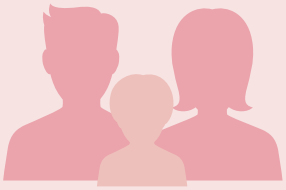
秋に開催される「ふるさと交流会」は、学習発表会を兼ねた、地域と学校が一体となる集まりです。地元の伝統芸能「満穂万歳」や民話劇などを児童が披露するほか、縄ないや竹細工を地域のお年寄りから習ったり、もちつきをしたりと、楽しい一日を過ごします。

全員参加の獅子舞 砥部小学校

6年生全員による獅子舞は、地元の和田実さんの指導で30年以上続いています。太鼓を除く全員が２人１組になって乱舞する姿は運動会の名物に。また、6年生が50年前の卒業生を迎えて交流する「50年前の大先輩を囲む会」も同校の伝統行事です。

一目で分かる砥部の暮らし

【世帯人口】



1世帯に2.5人（H26年度）

【人口密度】

1㎢に211.1人（H26年度）

【交通事故】

4.6日に1件（H26年度）

【火災】

73日に1件（H26年度）

【出生】

1日に0.42人（H24年度）

【死亡】

1日に0.58人（H24年度）

【救急車出動】

1日に2.35回（H26年度）

【ごみの排出量】

1日に17.9t（H25年度）

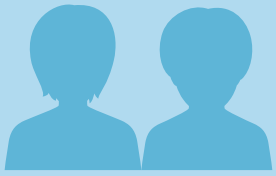
【転入】

1日に2.0人（H24年度）

【転出】

1日に2.3人（H24年度）

【児童生徒数】



4.7世帯に1人（H26年度）

資料編目次

土地・自然……P50
人口……P50
財政……P52
産業……P53
教育……P54
交通・消防……P55
福祉・保健衛生……P56
生活環境・観光……P57
文化財一覧……P58・59
砥部町合併10年の歩み……P60

土地・自然

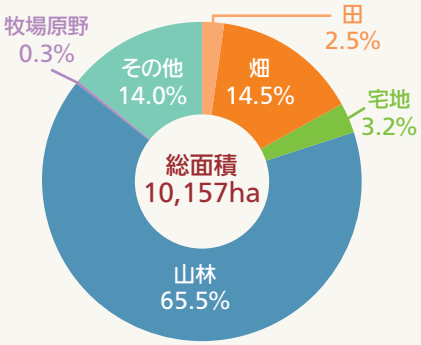
□ 地目別土地面積の推移

（単位：ha）

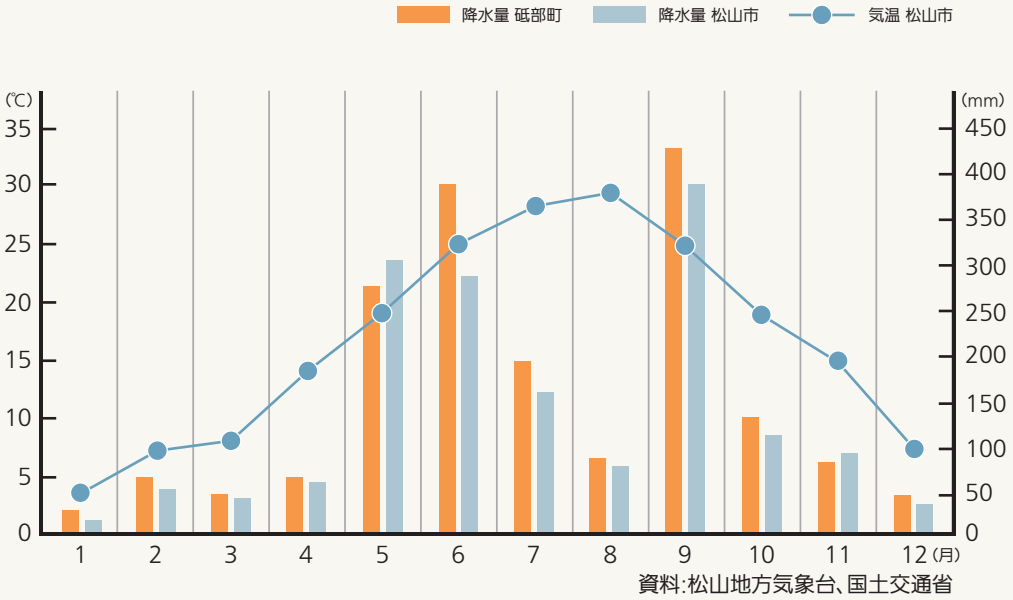
区分 / 年度		田	畑	宅地	山林	牧場原野	その他	総面積
平成12年度	砥部町	170	1,292	274	2,891	18	1,075	5,720
	広田村	98	211	30	3,810	14	274	4,437
17		258	1,493	315	6,700	32	1,358	10,157
21		251	1,483	324	6,680	31	1,387	10,157
22		251	1,480	326	6,673	31	1,396	10,157
23		250	1,476	327	6,657	31	1,415	10,157
24		249	1,475	328	6,656	31	1,417	10,157
25		249	1,475	328	6,656	31	1,417	10,157

※本表は、各年6月1日の固定資産概要調書によって集計したものです。

地目別土地面積の割合（平成25年度）



□ 気温・降水量（平成23年）



資料：松山地方気象台、国土交通省

人　口

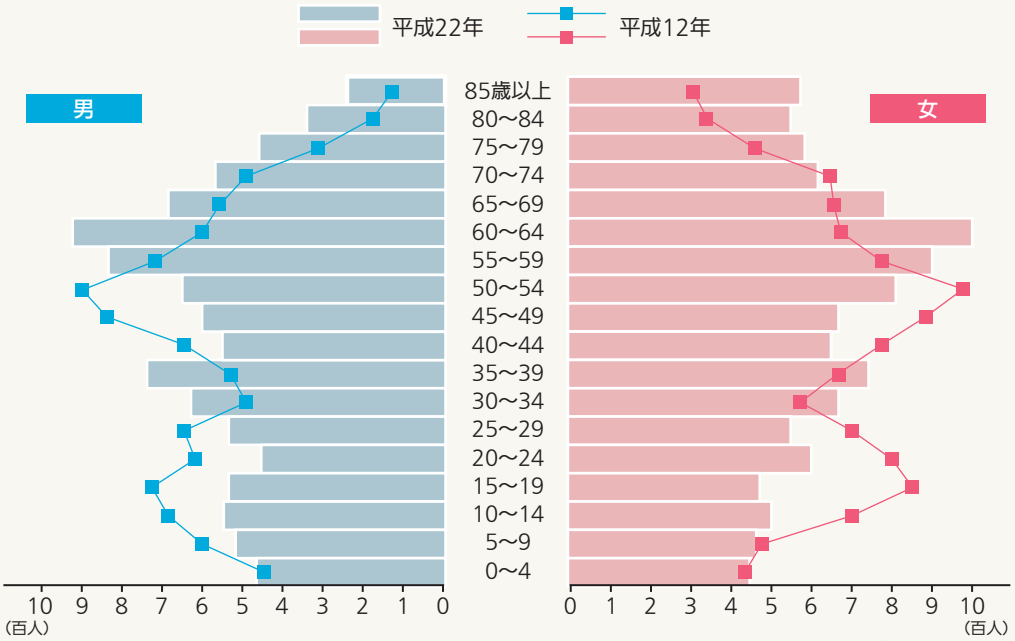
□ 世帯数・人口の推移

区分 / 年次		人口（人） 総人口	男	女	世帯数（世帯）	1世帯あたり人口（人）	人口密度（人/㎢）
平成12年	砥部町	20,961	9,787	11,174	7,232	2.9	366.5
	広田村	1,114	551	563	499	2.2	25.2
17		22,424	10,609	11,815	8,201	2.7	220.8
21		22,190	10,468	11,722	8,552	2.6	218.5
22		21,981	10,347	11,634	8,272	2.7	216.4
23		21,902	10,294	11,608	8,348	2.6	215.6
24		21,697	10,187	11,510	8,373	2.6	213.6
25		21,523	10,091	11,432	8,379	2.6	211.9
26		21,443	10,094	11,349	8,445	2.5	211.1

（注）平成12、17、22年は国勢調査結果、その他は10月1日現在の推計人口

資料：国勢調査、えひめの統計

◻ 5歳階級別人口



資料：国勢調査

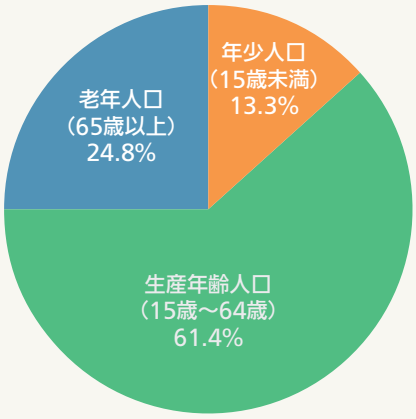
◻ 年齢階級別人口

(単位：人)

年　齢	男	女	総　数
0 ～ 4 歳	454	442	896
5 ～ 9 歳	527	463	990
10～14歳	541	494	1,035
15～19歳	531	476	1,007
20～24歳	437	594	1,031
25～29歳	533	555	1,088
30～34歳	639	676	1,315
35～39歳	743	731	1,474
40～44歳	544	649	1,193
45～49歳	602	669	1,271
50～54歳	660	810	1,470
55～59歳	837	898	1,735
60～64歳	913	994	1,907
65～69歳	695	778	1,473
70～74歳	569	617	1,186
75～79歳	462	587	1,049
80～84歳	346	565	911
85～89歳	169	332	501
90～94歳	60	180	240
95～99歳	15	61	76
100歳以上	2	9	11

資料：平成22年国勢調査

年齢層別割合（平成22年）



◻ 推計人口及び人口動態

(単位：人)

年　次	自　然　動　態			社　会　動　態			純増減数
	出　生	死　亡	増　減	転　入	転　出	増　減	
19	188	196	△8	901	931	△30	△38
24	153	213	△60	720	842	△122	△182

(注)推計人口は、平成17年及び平成22年国勢調査人口を基に、その後の自然動態と社会動態を増減したものである　　資料：人口動態調査

財　政

□ 普通会計歳入決算額の推移

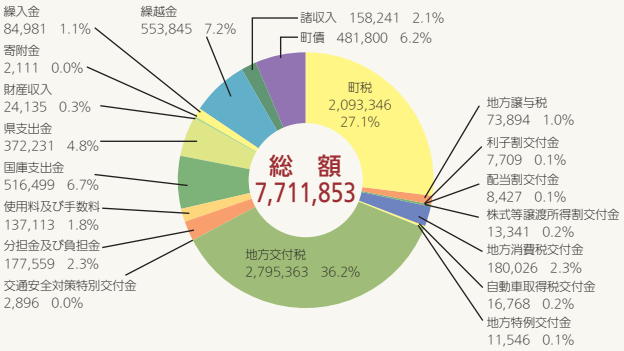
項目＼年度	平成20年度 決算額(千円)	平成20年度 構成比(%)	平成25年度 決算額(千円)	平成25年度 構成比(%)
総額	7,254,030	100.0	7,711,853	100.0
町税	2,124,766	29.3	2,093,346	27.1
地方譲与税	98,771	1.4	73,894	1.0
利子割交付金	13,438	0.2	7,709	0.1
配当割交付金	3,676	0.1	8,427	0.1
株式等譲渡所得割交付金	1,879	0.0	13,341	0.2
地方消費税交付金	185,976	2.6	180,026	2.3
自動車取得税交付金	36,480	0.5	16,768	0.2
地方特例交付金	32,299	0.4	11,546	0.1
地方交付税	2,497,465	34.4	2,795,363	36.2
普通交付税	2,287,829	31.5	2,576,106	33.4
特別交付税	209,636	2.9	219,257	2.8
交通安全対策特別交付金	3,768	0.1	2,896	0.0
分担金及び負担金	112,543	1.6	177,559	2.3
使用料及び手数料	325,721	4.5	137,113	1.8
国庫支出金	221,729	3.1	516,499	6.7
県支出金	317,984	4.4	372,231	4.8
財産収入	282,154	3.9	24,135	0.3
寄附金	1,211	0.0	2,111	0.0
繰入金	39,349	0.5	84,981	1.1
繰越金	599,387	8.3	553,845	7.2
諸収入	140,434	1.9	158,241	2.1
町債	215,000	3.0	481,800	6.2

□ 普通会計目的別歳出額の推移

項目＼年度	平成20年度 決算額(千円)	平成20年度 構成比(%)	平成25年度 決算額(千円)	平成25年度 構成比(%)
総額	6,642,386	100.0	6,946,608	100.0
議会費	103,224	1.6	110,517	1.6
総務費	1,157,655	17.4	779,079	11.2
民生費	1,592,410	24.0	2,079,672	29.9
衛生費	658,247	9.9	643,547	9.3
労働費	100	0.0	26,294	0.4
農林水産業費	229,974	3.5	204,982	3.0
商工費	210,085	3.2	137,717	2.0
土木費	335,936	5.1	497,560	7.2
消防費	342,455	5.2	720,683	10.4
教育費	718,348	10.8	955,920	13.8
災害復旧費	0	0.0	1,523	0.0
公債費	1,293,952	19.5	807,114	11.6

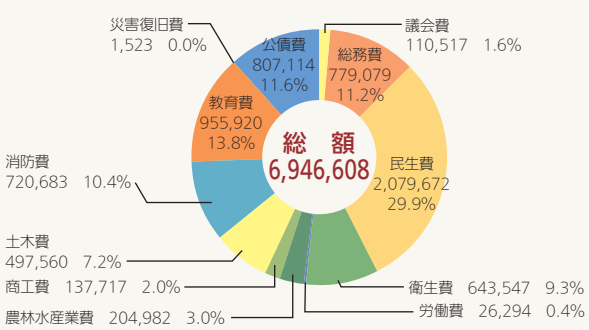
普通会計歳入決算額の割合（平成25年度）

（単位：千円）



普通会計目的別歳出額の割合（平成25年度）

（単位：千円）



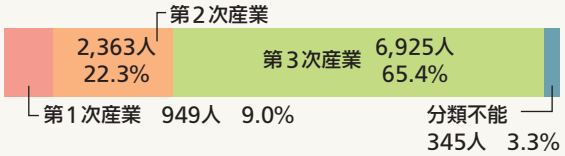
産　業

□ 産業大分類別就業者数

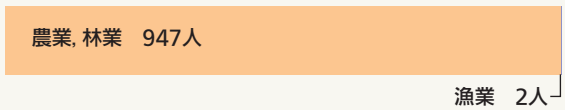
産業分類別	平成22年 就業者数（人）	構成比（%）
総　数	10,582	100.0
第１次産業	949	9.0
農業、林業	947	8.9
うち農業	888	8.4
漁業	2	0.0
第２次産業	2,363	22.3
鉱業、採石業、砂利採取業	5	0.0
建設業	942	8.9
製造業	1,416	13.4
第３次産業	6,925	65.4
電気・ガス・熱供給・水道業	19	0.2
情報通信業	146	1.4
運輸業・郵便業	517	4.9
卸売業、小売業	1,757	16.6
金融業、保険業	201	1.9
不動産業、物品賃貸業	127	1.2
学術研究、専門・技術サービス業	263	2.5
宿泊業、飲食サービス業	577	5.5
生活関連サービス業、娯楽業	356	3.4
教育、学習支援業	481	4.5
医療、福祉	1,421	13.4
複合サービス事業	96	0.9
サービス業（他に分類されないもの）	546	5.2
公務（他に分類されるものを除く）	418	4.0
分類不能	345	3.3

資料：国勢調査

就業状況の変化（就業者数10,582人）

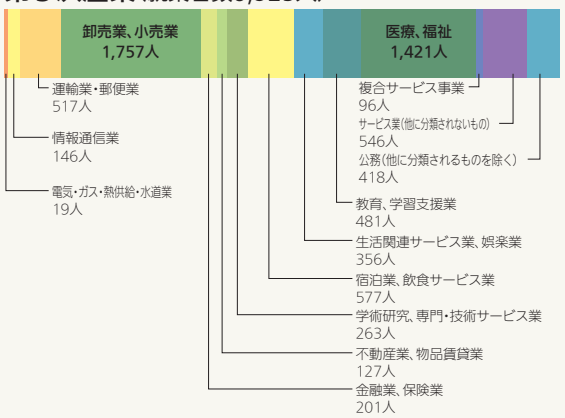


第１次産業（就業者数949人）



第２次産業（就業者数2,363人）

第３次産業（就業者数6,925人）

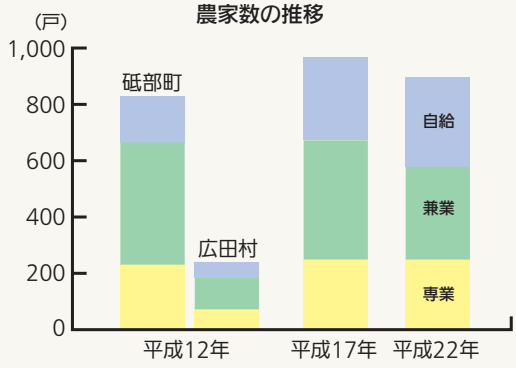


□ 農業の推移（総農家）

区分／年次		総農家数	専業農家	兼業農家 小計	兼業農家 第１種	兼業農家 第２種	自給的農家	就業人口
		戸	戸	戸	戸	戸	戸	人
平成12年	砥部町	830	221	454	136	318	155	1,128
	広田村	240	64	110	25	85	66	236
17		966	271	427	116	311	268	1,208
22		896	262	332	89	243	275	888

資料：農林業センサス

農家数の推移



□ 事業所数及び従業者数の推移

		平成13年 事業所数	平成13年 従業者数	平成18年 事業所数	平成18年 従業者数	平成21年 事業所数	平成21年 従業者数
総数	砥部町	938	9,899	944	8,699	954	8,660
	広田村	88	446				

資料：事業所・企業統計調査、平成21年経済センサス

□ 商店数、従業者数、年間販売額

	平成19年 商店数（店）	従業者数（人）	年間販売額（百万円）
総　数	250	1,782	63,999
卸売業	38	556	47,547
小売業	212	1,226	16,452

資料：商業統計調査

教　育

■ 学校別児童・生徒数の推移

（単位：人）

区分 / 年度	小学校							中学校		
	麻生	宮内	砥部	玉谷	広田	高市	総数	砥部	広田	総数
平成22年度	478	387	328	15	14	13	1,235	608	—	608
23	467	390	322	13	16	13	1,221	625	—	625
24	459	379	311	9	17	11	1,186	623	—	623
25	477	384	314	8	16	15	1,214	580	—	580
26	506	380	303	7	15	11	1,222	561	—	561

（注）各年度5月1日現在

資料：教育委員会事務局

■ 町立幼稚園の状況

（単位：人）

区分 / 年度	園数	園児数			総数
		3歳児	4歳児	5歳児	
平成22年度	3	77	78	98	253
23	3	89	82	83	254
24	3	69	88	82	239
25	3	76	75	94	245
26	3	51	76	72	199

（注）各年度5月1日現在

資料：学校教育課

交通・消防

道路の状況

（単位：km）

区分 / 年度		総計	一般道路計	国道	主要地方道	一般県道	町道	農道	林道
平成12年度	砥部町	356.3	186.8	19.7	9.8	15.1	142.2	166.5	3.0
	広田村	126.5	122.7	9.6	5.8	13.7	93.6	0.0	3.8
17		493.4	317.3	27.9	15.6	29.1	244.7	167.7	8.4
21		491.3	318.4	27.0	15.6	29.2	246.6	164.5	8.4
22		495.4	322.5	27.3	15.7	29.1	250.4	164.5	8.4
23		495.4	322.5	27.3	15.7	29.1	250.4	164.5	8.4
24		500.5	327.6	30.5	15.7	29.1	252.3	164.5	8.4
25		500.5	327.6	30.5	15.7	29.1	252.3	164.5	8.4

資料：建設課、産業振興課

消防団の構成

（単位：人）

区分	団長	副団長	分団長	副分団長	班長	団員		消防職員	計
						男	女		
定員	1	4	14	14	38	215	14	31	331

（注）平成26年4月1日現在

資料：伊予消防等事務組合　砥部消防署

火災発生件数

区分 / 年次	建物火災（件）	林野火災（件）	その他火災（件）	損害金（千円）	焼損面積	
					家屋（㎡）	林野（a）
平成12年	4	—	1	43,867	211	—
17	3	1	—	4,816	183	14
21	5	2	—	1,819	5	26
22	5	—	1	28,643	295	—
23	6	1	1	33,234	463	18
24	7	—	3	32,680	676	—
25	4	—	3	46,674	450	—
26	4	—	1	33,307	261	—

資料：伊予消防等事務組合　砥部消防署

救急業務実施状況

区分 / 年次	事故種別救急出動件数（件）												救急隊員数（人）
		火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	
平成12年	518	1	—	—	112	7	10	72	5	3	273	35	18
17	700	—	—	—	86	14	7	103	3	11	394	82	27
21	775	—	1	—	95	5	9	120	1	13	449	82	27
22	819	4	—	—	88	11	16	118	1	11	472	98	27
23	827	2	—	1	91	12	13	123	2	8	460	115	30
24	852	2	—	—	95	8	9	125	5	7	518	83	32
25	855	2	—	1	86	8	6	127	—	9	530	86	29
26	858	3	—	—	93	11	12	129	1	7	523	79	29

（注）平成17年より広田地区含む

資料：伊予消防等事務組合　砥部消防署

交通（人身）事故発生状況

区分 / 年度	発生件数（件）				死者（人）				傷者（人）			
	県	松山南署	砥部町	広田村	県	松山南署	砥部町	広田村	県	松山南署	砥部町	広田村
平成12年	11,490	1,582	178	—	155	17	2	—	14,150	1,991	216	—
17	11,155	1,759	167		113	16	—		13,581	2,119	197	
22	8,188	1,247	105		64	4	—		9,728	1,489	132	
23	7,903	1,189	113		91	14	6		9,457	1,430	133	
24	7,108	985	75		56	6	0		8,385	1,168	87	
25	6,692	948	91		70	10	3		7,860	1,095	97	
26	5,745	848	80		75	7	1		6,817	1,010	89	

資料：企画財政課

福祉・保健衛生

□ 保育所入所児童数

（単位：人）

施設名	総　数	3歳未満児	3歳児	4歳児	5歳児	定　員
砥部保育所	51	17	9	15	10	60
宮内保育所	86	36	14	15	21	80
麻生保育所	93	28	24	21	20	120
広田保育所	8	3	0	4	1	30
町　　外	5	2	1	1	1	－
合　計	243	86	48	56	53	290

（注）平成26年４月現在。広域受託児童は含まない。資料：学校教育課

□ 国民健康保険被保険者数等の推移

区　分	世帯数（世帯）	被保険者数（人）
平成23年度	3,524	6,418
24	3,538	6,358
25	3,520	6,231

資料：保険健康課

□ 国民年金被保険者の状況

（単位：人）

区　分	総　数	1号被保険者	3号被保険者	任意加入
平成21年度	5,561	3,589	1,930	42
22	5,372	3,474	1,843	55
23	5,164	3,351	1,766	47
24	5,038	3,312	1,691	35
25	4,798	3,116	1,650	32

資料：保険健康課

□ 国民健康保険の医療給付状況（医療の給付・療養費）

(1)　一般被保険者分（若人）

（単位：円）

区　分	療養諸費費用額	保険者負担分	一部負担金	他法負担分
平成25年度	1,829,072,080	1,342,484,541	406,087,729	80,499,810

資料：保険健康課

(2)　退職者被保険者分

（単位：円）

区　分	療養諸費費用額	保険者負担分	一部負担金	他法負担分
平成25年度	190,605,519	133,308,708	52,671,814	4,624,997

資料：保険健康課

□ 後期高齢者医療被保険者数推移

（単位：人）

区　分	75歳以上	障害認定該当者（65～74歳）	計
平成20年度	2,557	72	2,629
21	2,631	72	2,703
22	2,717	71	2,788
23	2,795	66	2,861
24	2,840	61	2,901
25	2,894	70	2,964

3月末現在

□ 後期高齢者医療費給付状況

区　分	件　数（件）	医療受給者数（月平均）（人）	費用額（円）	1人当たり医療費（円）
平成25年度	75,942	2,930	2,790,698,298	952,457

生活環境・観光

□ 水道給水状況

年　度	行政区域内人口(人)	給水戸数(戸)	給水人口(人)	年間配水量(㎥)
平成23年度	22,206	8,438	20,822	2,993,335
24	22,047	8,473	20,689	2,830,975
25	21,960	8,516	20,623	2,930,034

資料：生活環境課

□ 一般廃棄物処理状況

(1)　し尿、浄化槽汚泥

項　目		人　口(人)				総排出量(kℓ)			
			水洗化人口（うち農業集落排水及び下水道人口）	くみとり人口	自家処理人口		くみとり し尿量	浄化槽汚泥量（うち農業集落排水汚泥量）	自家処理量
平成12年度	砥部町	21,376	17,331	3,510	535	10,538	2,320	7,991	227
	広田村	1,234	354（ 35）	680	200	498	142	139（－）	217
17	砥部地区	21,611	18,723	2,599	289	11,623	1,845	9,573	205
	広田地区	1,177	791（183）	166	220	471	103	231	137
21	砥部地区	21,560	19,080	2,456	24	13,316	1,869	11,430	17
	広田地区	994	571（422）	373	50	354	47	297	10
22	砥部地区	21,430	19,313	2,097	20	14,176	1,523	12,639	14
	広田地区	970	581（416）	339	50	323	54	261	8
23	砥部地区	21,376	19,424（2,162）	1,933	19	13,630	1,398	12,219	13
	広田地区	945	564（400）	346	35	280	35	241	4
24	砥部地区	21,253	19,339（2,584）	1,896	18	11,847	1,504	10,329	14
	広田地区	918	629（469）	264	25	296	39	253	4
25	砥部地区	21,113	19,409（3,751）	1,687	17	11,826	1,427	10,385	14
	広田地区	884	627（470）	237	20	265	38	224	3

(注)人口は各年度10月１日現在の住民基本台帳人口による。
　　また、合併後もし尿処理は２系統に分かれているため２段で掲載する。

資料：生活環境課

(2)　ごみ

項　目		人　口(人)			総排出量(t)			
			計画収集人口	自家処理人口		可燃系ごみ	不燃ごみ	粗大ごみ
平成21年度	砥部地区	21,560	21,560	－	6,356	4,670	1,395	291
	広田地区	994	994	－	156	156	0	0
22	砥部地区	21,430	21,430	－	6,325	4,511	1,506	308
	広田地区	970	970	－	155	155	0	0
23	砥部地区	21,376	21,376	－	6,325	4,504	1,513	308
	広田地区	945	945	－	175	175	0	0
24	砥部地区	21,253	21,253	－	6,145	4,450	1,386	309
	広田地区	918	918	－	178	178	0	0
25	砥部地区	21,113	21,113	－	6,365	4,462	1,614	289
	広田地区	884	884	－	168	168	0	0

(注)人口は各年度10月１日現在の住民基本台帳人口による。
　　また、合併後もごみ処理は２系統に分かれているため２段で掲載する。

資料：生活環境課

文化財一覧

平成26年5月1日現在

□ 国指定文化財

番号	種　別		文化財名	指定(認定)年月日	所在地等
1	記念物	天然記念物	砥部衝上断層	昭和13年5月30日	岩谷口・大南

□ 国登録文化財

番号	種　別		文化財名	登録年月日	所在地等
1	有形文化財	建造物	宮ノ瀬窯水車小屋	平成15年12月１日	川登
2	有形文化財	建造物	佐々木酒造主屋	平成16年3月2日	総津
3	有形文化財	建造物	佐々木酒造煉瓦煙突	平成16年3月2日	総津

□ 愛媛県指定文化財

番号	種　別		文化財名	指定(認定)年月日	所在地等
1	有形文化財	建造物	岩屋寺の厨子及び須弥壇	昭和39年3月27日	岩谷（霊岩寺）
2	記念物	史跡	大下田古墳群	昭和43年3月8日	上原町
3	無形文化財	工芸技術	砥部焼（保持者：酒井芳美）	平成17年12月27日	五本松

□ 砥部町指定文化財

番号	種　別		文化財名	指定(認定)年月日	所在地等
1	記念物	史跡	大森彦七供養塔	昭和44年3月15日	宮内
2	記念物	史跡	窪田兵右衛門の墓	昭和44年3月15日	八倉
3	記念物	天然記念物	五本松の大いちょう	昭和44年3月15日	五本松
4	有形文化財	工芸品	三岳寺鰐口	昭和44年3月15日	三角（三岳寺）
5	民俗文化財	俳額	米山書俳額	昭和44年3月15日	宮内（宮内天満宮）
6	有形文化財	工芸品	北川毛鉄絵松竹梅徳利	昭和52年4月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
7	有形文化財	工芸品	五松斎錦絵紙雛文大花瓶	昭和52年4月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
8	有形文化財	工芸品	五松斎錦絵孔雀文大花瓶	昭和52年4月25日	大南
9	有形文化財	工芸品	五松斎錦絵大皿	昭和52年4月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
10	有形文化財	工芸品	上原染付鯉文徳利	昭和52年4月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
11	有形文化財	工芸品	上原染付牡丹徳利	昭和52年4月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
12	有形文化財	工芸品	上原染付人物文茶壺	昭和52年4月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
13	有形文化財	工芸品	愛山淡黄磁飛魚文彫花瓶	昭和52年4月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
14	有形文化財	工芸品	寺内半月観音座像	昭和52年4月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
15	有形文化財	工芸品	愛山錦絵菊文大花瓶一対	昭和52年4月25日	大南
16	有形文化財	工芸品	上原町天神社灰釉唐獅子	昭和52年4月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
17	有形文化財	建造物	理正院楼門	昭和57年9月30日	麻生（理正院）
18	有形文化財	彫刻	木造大日如来座像	昭和57年9月30日	麻生（理正院）
19	有形文化財	彫刻	木造金剛力士立像（２体）	昭和57年9月30日	麻生（理正院）
20	有形文化財	彫刻	木造弘法大師肖像	昭和57年9月30日	麻生（理正院）
21	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来立像	昭和57年9月30日	高尾田（長福寺）
22	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀如来座像	昭和57年9月30日	宮内（永代寺）
23	有形文化財	彫刻	木造阿弥陀三尊像（３対）	昭和57年9月30日	岩谷（霊岩寺）
24	有形文化財	工芸品	梵鐘	昭和57年9月30日	原町
25	民俗文化財	絵馬	騎馬図	昭和57年9月30日	麻生（三島神社）
26	記念物	史跡	魔住が窪	昭和57年9月30日	重光
27	記念物	史跡	庄屋善兵衛の墓	昭和57年9月30日	北川毛

左ページへ続く

28	記念物	史跡	砥石山	昭和57年9月30日	外山
29	記念物	天然記念物	もがし（２本）	昭和57年9月30日	八倉（公民館）
30	有形文化財	工芸品	上原窯白磁瓶子	平成3年11月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
31	有形文化財	工芸品	上原窯錦絵唐子文茶壺	平成3年11月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
32	有形文化財	建造物	梅山大登り窯	平成3年11月25日	大南
33	有形文化財	工芸品	通谷山古墳出土品	平成3年11月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
34	記念物	古墳	水満田古墳群	平成3年11月25日	麻生
35	記念物	城跡	千里城址	平成3年11月25日	川登
36	有形文化財	古文書	坪内家文書	平成11年3月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
37	有形文化財	工芸品	せん仏	平成11年3月25日	大南（砥部焼伝統産業会館）
38	有形文化財	石造美術	米山書神名石	平成11年3月25日	宮内（宮内天満宮）
39	有形文化財	石造美術	宝篋印塔	平成11年3月25日	高尾田（高雄神社）
40	記念物	天然記念物	熊野神社の柏の木	平成11年3月25日	岩谷口（熊野神社）
41	記念物	天然記念物	麻生の椋の木	平成11年3月25日	麻生
42	記念物	史跡	佐治右衛門の墓	平成11年3月25日	川登
43	記念物	史跡	窪田兵右衛門の墓碑	平成11年3月25日	重光（円通寺）
44	民俗文化財	無形	満穂万歳	昭和54年4月1日	満穂
45	民俗文化財	無形	篠谷獅子舞	昭和54年4月1日	満穂
46	民俗文化財	無形	中野川獅子舞	昭和54年4月1日	中野川
47	民俗文化財	無形	鳴滝獅子舞	昭和54年4月1日	高市
48	民俗文化財	無形	本村獅子舞	昭和54年4月1日	高市
49	民俗文化財	無形	総津獅子舞	昭和54年4月1日	総津
50	民俗文化財	無形	仙波獅子舞	昭和54年4月1日	仙波
51	民俗文化財	無形	多居谷盆踊り	昭和55年8月20日	多居谷
52	民俗文化財	無形	高市舎儀利	昭和56年9月1日	高市
53	民俗文化財	無形	立花太鼓	昭和60年4月1日	総津
54	民俗文化財	有形	木偶まわし人形	平成16年11月30日	高市
55	有形文化財	建造物	薬師堂・附棟札	平成16年11月30日	高市
56	有形文化財	建造物	高森三島神社本殿・附棟札	平成16年11月30日	高市
57	有形文化財	建造物	総森三島神社本殿及び拝殿	平成16年11月30日	総津
58	有形文化財	石造美術	高市新西国三十三体観音像	平成16年11月30日	高市
59	有形文化財	古文書	土居家文書	平成16年11月30日	高市
60	無形文化財	工芸技術	砥部焼（保持者：工藤省治）	平成18年3月27日	五本松
61	有形文化財	典籍	満穂光明寺「版本五部大乗経」	平成20年2月25日	満穂
62	記念物	天然記念物	高森三島神社のケヤキ ２本	平成24年2月27日	高市
63	記念物	天然記念物	仙波分校跡のムクノキ	平成24年2月27日	仙波
64	記念物	天然記念物	千人塚の小米桜（エドヒガン）	平成24年2月27日	高市
65	有形文化財	古文書	砥石業文書	平成25年3月27日	外山（外山集会所）
66	有形文化財	工芸品	外山村旧番地入絵地図	平成25年3月27日	外山（外山集会所）
67	記念物	史跡	上原窯跡	平成25年7月29日	外山
68	無形文化財	工芸技術	ろくろ技術（保持者：亀田茂樹）	平成26年4月28日	北川毛
69	無形文化財	工芸技術	加飾技術（保持者：山田ひろみ）	平成26年4月28日	五本松

砥部町合併10年の歩み

年	事　　項
平成17年	○砥部町と広田村が合併し新砥部町が誕生 ○初代町長に中村剛志氏就任 ○初代議長に田室博志氏就任 ○陶街道五十三次－砥部の里めぐり－スタート ○第１回とべ陶街道文化まつり開催 ○第１回スポーツまつりinとべ開催 ○町営住宅宮内団地完成 ○砥部町民の森「木楽里（きらり）」初植樹 ○愛媛CATVが砥部・宮内・麻生校区でエリア開局 ○砥部焼が県指定無形文化財に指定され、砥部焼の技術保持者として酒井芳美氏が認定される
平成18年	○砥部町行財政改革大綱を策定 ○「毎日・地方自治大臣賞」（毎日新聞社主催・総務省後援）で「砥部焼陶芸塾の取り組み」が奨励賞受賞 ○砥部町の木はクヌギ、花は梅に決定 ○公共下水道第1期工事始まる ○新砥部町青年団結成
平成19年	○総津地区農業集落排水施設供用開始 ○とべ温泉「湯砥里館」の入浴者200万人 ○家庭ゴミの処理を有料化 ○拾町交差点立体化工事完成・開通 ○町総合公園で「ふるさと盆踊り大会」開催
平成20年	○砥部町総合計画を策定 ○陶街道夢タワー「愛伊砥くん」完成 ○広田中学校で最後の入学式 ○国道33号砥部道路が全線四車線化 ○国道379号岩谷バイパス一部開通 ○全国育樹祭で皇太子殿下ご来町
平成21年	○中村剛志氏が町長選挙で再選 ○町議会議員定数を16人に削減し、町議選挙を執行 ○広田中学校を閉校し砥部中学校に統合 ○とべ動物園の入園者1,300万人 ○砥部焼の水琴窟誕生 ○異常渇水のため全国で最初に時間断水 ○坂村真民生誕100年記念の集い開催 ○砥部焼ロンドン展開催 ○現代の名工に白潟八洲彦氏が選ばれる
平成22年	○総合公園の名称を「陶街道ゆとり公園」に変更 ○イメージキャラクターの愛称「とべっち」に決定 ○公民館と支所を兼ねた「ひろた交流センター」完成 ○現在の砥部焼の基礎を築いた梅野武之助氏の顕彰碑を陶祖ケ丘に建立 ○国道379号万年トンネル貫通 ○自主防犯パトロール組織「陶街道青パト隊」結成 ○庁舎ロビーに名誉町民モニュメント設置
平成23年	○全国瞬時警報システム（J-Alert）運用開始 ○公共下水道供用開始 ○とべ温泉「湯砥里館」の入浴者250万人 ○陶街道ゆとり公園を主会場に愛媛県総合防災訓練実施 ○「独居高齢者生活状況確認事業」スタート ○広田小学校で100周年記念事業
平成24年	○坂村真民記念館開館 ○国道33号三坂道路開通 ○国道379号岩谷バイパス万年トンネル開通 ○町民農園「とべ陶街道ふれあい農園」開園 ○砥部町観光キャラクター「ななうめちゃん」誕生 ○民話の里ひろた事業で広田地域に民話の音声案内装置を設置
平成25年	○町長に佐川秀紀氏就任 ○砥部中学校新校舎完成 ○松山南部トンネル貫通 ○とべ温泉「湯砥里館」20周年
平成26年	○伊予消防等事務組合砥部消防署新庁舎完成 ○第39回全日本愛瓢会総会・展示会砥部町大会で秋篠宮殿下ご来町 ○「バランスシート探検隊」事業実施 ○松山南部農道開通 ○「愛顔つなぐえひめ国体（2017開催）」の本町での開催競技がバドミントンに正式決定 ○国道33号中央分離帯に砥部焼モニュメント設置

清流とほたる 砥部焼とみかんの町

砥部町 陶街道の景色 keshiki

地　勢 Topography

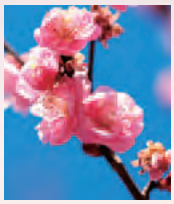
愛媛県の中央に位置し、北部は県都松山市に重信川を隔てて接しています。西部は松前町、伊予市、東部は久万高原町、南部は内子町と接しています。
東西9km、南北21kmの細長い地形で、面積は101.57㎢です。
北部は、重信川に注ぐ砥部川が中央部を流れる盆地状の地形です。
南部に向かうにつれ標高が高くなり、北ケ森(1,010m)、三郷の辻(932m)などの高峰に囲まれた山間地域になります。

町　章 Town Emblem

砥部町の「とべ」を図案化したもの。円形は「和」を、放射線状は「未来への発展」を象徴しています。

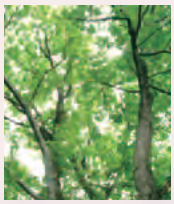
イメージキャラクター とべっち Symbol Character

平成21年度に新たに誕生したキャラクター。砥部町の特産品(砥部焼・みかん)を使い、陶街道を巡る旅人をイメージした、その名も「とべっち」。
砥部町のイベントや陶街道拠点などに出没し、砥部の良さをアピールします。



町の花「ウメ(梅)」 Town Flower

砥部町では、江戸時代から植えられており、現在では、梅園のある七折地区で多く見られます。毎年、恒例の梅まつり(2月20日ごろ～3月10日ごろ)が開催され、町内外から多くのお客さんでにぎわいます。
また、正岡子規が「砥部焼の乳の色なす花瓶に梅と椿と共に活けたり」と詠んだように、町の伝統的工芸品である砥部焼との関連も深く、現在も多くの窯元が梅の花を題材に絵付けをしています。



町の木「クヌギ(椚)」 Town Tree

旧広田村の村の木で、砥部町にも多く自生しています。
木炭生産が盛んであったころは、燃料として利用され、燃料革命後の昭和30年ころからは、旧広田村の産品であるシイタケの原木として多く利用されています。
樹液には、カブトムシやクワガタなどの昆虫が集まり、秋には、どんぐりの実を落とすことなどから、子どもたちにも親しまれています。